

令和3(2021)年度 中部環境パートナーシップオフィス運営業務 年間報告書

目 次

業務概要	1
1 業務実施計画の作成及び公表	7
(1) 第6期の事業目標・事業計画	7
(2) 令和3年度業務実施計画	14
(3) 第6期事業計画及び業務実施計画の公表	20
2 ESD/EPO運営委員会の設置・開催	23
(1) 委員の選定	23
(2) 会議の実施	23
(3) 運営委員との業務における連携（主催イベントへの登壇等）	28
3 基本業務	29
(1) 情報の収集・蓄積・発信に関する業務	29
(2) 相談対応及び対話の体制の構築に関する業務	34
(3) 施設の維持・管理	49
4 協働取組の促進のための業務	53
(1) 地域循環共生圏づくりフォーラムの開催	53
(2) 協働コーディネーターとの連携による実践的取組【北陸地域】	55
(3) 協働コーディネーターとの連携による実践的取組【信州地域】	58
(4) 活動主体へのフィードバック（活動見える化プログラムの活用）	63
(5) ローカルSDGs/地域循環共生圏のためのグループワーキング	66
5 中部地方ESD活動支援センター運営業務	69
(1) 中部ESDセンターの運営・推進（ワークブック作成）	69
(2) ESD活動支援（第6期ESD推進計画の策定）	72
(3) ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォーラムの開催	74
(4) 全国センターとの連携、地域ESD拠点登録支援等	76
(5) ジオパーク等の活用（ESDダイアログの開催）	78
(6) 域内外の多様な主体の連携促進、交流機会の提供	82
(7) 教育現場の実態把握と連携強化	90
6 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務	97
(1) 地域プラットフォームの環境整備支援等業務	97
(2) 地域循環共生圏プラットフォーム意見交換会等業務	100
(3) 環境省、GEOC主催会議等への参加	107
(4) 支援チーム派遣の団体の活動の情報共有	107
(5) 森川里海推進ネットワーク形成会合の開催	108
(6) 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業	112
(7) 地域循環共生圏の担い手（団体等）との関係構築	120
7 ESD/EPOの行事を通じた行動変容の把握	123
(1) 代表的な行事後の行動変容の把握	123
(2) 地域循環共生圏及びローカルSDGs実践状況等の評価	126
8 関係主体との連携及び協働に関する業務	131
(1) 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換	131
(2) 全国ネットワークの活用及び連携の確保・強化	138
9 外部資金を活用した事業	141
10 今後に向けて	147

業務概要

(ア) 業務の目的

持続可能な社会を構築する上で、国民、民間団体等が行う環境保全活動並びにその促進のための環境保全の意欲の増進及び環境教育が重要であることに加え、これらの取組を効果的に進める上で協働取組が重要となる。

「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」(以下「環境教育等促進法」という。)第19条において、「国は、国民、民間団体等が行う環境保全等を効果的に推進するため、情報提供や助言、交流機会の提供等を行う拠点としての機能を担う体制の整備に努めること」とされており、同法第7条で定める国の方針(以下「促進法基本方針」という。)により、環境省においては、協働取組を構築・促進するための中核的な扱い手として「環境パートナーシップオフィス(以下「EPO」という。)」を全国に設置し、事業を実施しているところである。

本業務は、EPO中部が環境教育等促進法の規定する国の役割を果たすため、また中部ESD活動支援センター(以下「中部ESDセンター」という。)が国内実施計画等を踏まえた役割を果たすため、全国のEPOと地球環境パートナーシッププラザ(以下「GEOC」という。)のネットワーク(以下「EPOネットワーク」という。)を活用するとともに、中部地方の事情を踏まえて各種事業等を企画し、それを実施することにより、市民、NPO/NGO、行政、企業等、社会を構成する様々な主体による協働・連携の取組を広げ、効果的・効率的に環境保全活動、多種多様な環境施策への協力及びESD活動等を活性化させることを目的に実施した。

また、「第5次環境基本計画」(平成30年4月閣議決定)において、今後の環境政策は経済社会システム、ライフスタイル、技術などあらゆる観点からイノベーションの創出や、経済・社会的な課題の同時解決を実現し、将来に渡って質の高い生活をもたらす「新たな成長」につなげていくこととしている。その中で、地域の活力を最大限に發揮する「地域循環共生圏」の考え方を新たに提唱し、各地域が自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合う取組を推進し、持続可能な地域づくりを通じて、環境で地方を元気にしていくとともに、持続可能な社会を構築するための創造に取り組むことにも留意し、本業務を実施した。

(イ) 業務の内容

中部環境パートナーシップオフィスには、主に以下の役割が期待されている。

- ① 持続可能な社会の実現に向けた地域の協働取組モデルの創出・支援
- ② 持続可能な社会の構築に向けたESDの推進
- ③ 地域における中間支援機能の強化
- ④ 環境教育促進法の普及・促進
- ⑤ 情報の提供、相談対応等

(ウ) 実施業務

- (1) 業務実施計画の作成・公表
 - ①第6期の事業目標・事業計画の作成
 - ②令和3年度の実務実施計画の作成
 - ③定量的な達成目標の設定
- (2) ESD/EPO運営会議の設置・開催
 - ・運営委員の選定
 - ・委員委嘱手続、連絡調整、会場手配・設営、当日の進行、議事録作成、事務手続き
 - ・会議の設置・運営(2回)

(3) 基本業務

ア. 情報の収集・蓄積・発信に関する業務

- ①ホームページの更新及び維持管理（月2回程度）
- ②メールマガジンの作成及び発行（月1回程度）
- ③リーフレットの作成及び配布（A4フルカラー）
- ④地域ニーズの把握

イ. 相談対応及び対話の体制の構築に関する業務

- ①照会・相談対応
- ②対話の体制の構築
- ③定例報告

ウ. 施設の維持・管理

(4) 協働取組の促進のための業務

ア. 協働コーディネーターと連携した地域循環共生圏づくりフォーラムの開催

イ. 協働コーディネーターとの連携による実践的取組（北陸2回、信州2回程度）

ウ. 活動主体へのフィードバック

- ・「活動見える化プログラム」の活用（事前ヒアリング）（北陸1事例、信州1事例）

エ. ローカルSDGs/地域循環共生圏のためのグループワーキング（1回）

(5) 中部地方ESD活動支援センター運営業務

ア. 中部ESDセンターの運営・推進

- ・ESD情報ツールパッケージ「(仮)中部版ESDワークブック～学生・社会人のための地域社会SDGs実践」(プロトタイプ版)の作成

イ. ESD活動支援

- ・第6期「中部地域ESD推進計画(仮称)」の策定

ウ. ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォーラム(学生サミット)の開催（1回）

エ. 全国ESDセンターとの連携、地域ESD拠点登録支援等

①全国ESDセンター及び地方ESD活動支援センターとの連携

- ・全国ESDセンター企画運営委員会（2回程度）
- ・全国、地方連絡会（2回程度）
- ・ESD推進ネットワーク全国ESDフォーラム（1回）

②地域ESD拠点登録支援等

オ. ジオパーク等の活用（1回）

カ. 域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会の提供

①活動計画の作成

②交流者の参加募集

③学び合いの実施（2回程度）

④実践活動（1回程度）

⑤全国フォーラムへの活動結果報告

キ. SDGsへ向けたESD推進のための教育現場の実態把握と連携強化

①専門家への包括的ヒアリング（1回／1名）

②教育部局、教育委員会、現場の教員等を対象としてヒアリング（2回程度）

(6) 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務（地域循環共生圏の形成支援）

ア. 地域プラットフォームの環境整備支援等業務

- ・採択団体（2団体程度）への環境整備プロセスにかかる支援
- ・過年度登録・採択団体への情報提供
- ・年度当初に新規採択団体へのヒアリング（ヒアリング結果、支援計画等のGEOC提出）

イ. 地域循環共生圏プラットフォーム意見交換会等業務

- ・採択団体（2団体程度）による環境整備推進のための意見交換会（2回程度）の支援・運営
 - ・開催結果の取りまとめと GEOCC への報告
 - ウ. 環境省、GEOC が主催する会議等への参加
 - ・環境省が主催する成果報告会（1回）※
 - ・GEOC が主催する情報交換会（1回）※
 - ・中間報告会（3回）※
 - ・作業部会（2回）
 - ・共有会（3回）
 - ・ブロック別共有会（1回）
 - ※印の会議等での採択団体の資料作成支援、意見交換の補佐
 - エ. 支援チーム派遣の団体の活動の情報共有
 - ・支援チーム派遣団体（1団体）の進捗状況把握と制度設計への助言
 - オ. 森川里海推進ネットワーク形成会合の開催
 - ①情報交換会の実施（2回程度）
 - ②令和2年度実施「資金調達のための SDGs 共感ストーリー」ワークショップのプログラム整理（1事例）
 - カ. 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業
 - ①情報交換会の開催（4回程度／※うち1回は長野県飯山市を題材に開催）
 - ②GEOC が開催する事業検討会議への参加（2回程度）
 - ③GEOC が開催する情報交換会への参加（2回程度）
 - キ. 地域循環共生圏に通じる担い手（団体等）への情報提供、関係構築（2団体程度）
- （7）ESD/EPO の行事を通じた行動の変容の把握
- ①行動変容の把握：簡易ヒアリングによる今年度の成果（行動の変容）の把握と成果のとりまとめ（6事例程度）
 - ②地域循環共生圏及びローカル SDGs の実践状況等の評価：評価メニュー、プログラム等の情報収集と試行的な実施（2事例程度）
- （8）関係主体との連携及び協働に関する業務
- ア. 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換
 - ①定期的な打合せ（月1回程度）、日々の業務について月次報告
 - ②外部評価委員への出席（1回程度）と必要な資料作成等
 - ③白書を読む会への企画協力（1回）
 - ④全国ユース環境活動発表大会（中部大会、1回程度）への参画、審査委員の選定・報告
 - ⑤EPO 中部行事（※希望する行事がある場合）の記者発表対応
 - イ. 全国の地方 EPO・GEOC・ESD 活動支援センター（全国・地方）のネットワーク活用と連携
 - ・GEOC 主催の全国 EPO 連絡会議に参加（2回）
 - ・その他開催会合等への必要に応じた参加
- （9）外部資金を活用した事業
- （10）成果物の提出
- ・四半期報告書の作成・提出
 - ・地域ニーズの把握：次年度行事ニーズ及び新規連携の可能性の取りまとめと提出
 - ・年間報告書、及び概要版の作成・提出
- 支援チーム派遣団体（1団体）の進捗状況把握と制度設計への助言

(工) 業務の実施概要 (2022年3月18日時点)

仕様書業務項目		業務内容	実施・開催等の進行状況 ※集計等は3月22日に実施		
1 業務実施 計画作成・公表	1-1	第6期の事業目標・事業計画の作成・公表	作成済み	→第1回運営委員会に 諮詢	ウェブサイト掲載
	1-2	令和3年度の業務実施計画の作成・公表	作成済み	→第1回運営委員会に 諮詢	ウェブサイト掲載
2 運営会議	ESD/EPO運営委員会の開催・運営【2回】		第1回:6/16実施 議事録公開	第2回:2/28 議事録公開	
3 基本業務	3-1	HP(EPO、ESD)の更新維持管理	適宜実施	アクセス数(PV数):EPO00000件／ESD:00000件	
	3-2	メールマガジンの作成・発行	毎月1回以上発行		
	3-3	リーフレットの作成・配布	~10月まで第5期リーフ レットの在庫540部活用	11月に第6期リーフレット 完成、300部印刷	イベント等で300部を配布 活用
	3-4	照会・相談対応、対話の体制の構築	適宜実施	相談対応:00件／電話・メールでの相談:00件／講 師招聘:00件／業務打合せ:00件	
	3-5	定例報告	月次報告書の提出	来館利用件数:00件／来館者数:000人	
	3-6	施設の維持・管理	適宜実施	事業実施日数:計000日	
4 協働取組 の促進の ための業 務	4-1	協働コーディネーターと連携したフォーラム開 催【1回(3時間)】	越前市・三田村氏と連携して11/20地域循環共生圏フォーラム開催		
	4-2	協働コーディネーターとの連携による実践的な 取組【北陸2回・信州2回(各2時間)】	北陸:中島氏と連携して 勉強会①9/11、②12/17	信州:山室氏と連携して フォーラム①7/13、②2/25	
	4-3	活動主体へのフィードバック(活動の見える化ブ ログラムの活用)【北陸1、信州1事例】	北陸:4-1の取組で作成	信州:4-2の取組で作 成、活用	
	4-4	ローカルSDGs/地域循環共生圏グループワー キング【1回(3時間)／愛知県内】	地域循環共生圏セミナーを1/19にオンライン開催		
5 中部地方 ESD活動 支援セン ター運営 業務	5-1	ESDワークブックの作成	5-7専門家WGで検討	→プロトタイプ版を作成	
	5-2	ESD活動支援:第6期ESD推進計画の策定	作成済み	→第1回運営委員会に諮詢して完成	
	5-3	ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォーラムの 開催【1回(半日)／愛知県内】	2/19にSDGs学生サミットとして開催		
	5-4	全国ESDセンター運営会議【2回】、連絡会【2 回】、全国フォーラム【1回】等に出席・参加	企画運営会議:①6/22、 ②2/17	連絡会:①5/27、②1/26	全国フォーラム:12/11
	5-5	地域ESD拠点登録支援	適宜実施		
	5-6	ジオパーク等活用(ESDダイアログの開催) 【1回(2時間)】	11/13-14に立山黒部ジオパークで開催 一日目:富山市内で座学、二日目:黒部ジオ教育等現地見学		
	5-7-1	交流機会提供 ①活動計画の作成、②交流者 の参加募集 ⑤全国フォーラム結果報告	活動計画を作成	参加募集広報を展開	12/11全国フォーラムで 実施内容を報告
	5-7-2	交流機会提供 ③勉強会・意見交換会【2回(各 1時間)】 ④実践活動【1回(2時間)】	学び合いの場①を8/26 にオンライン開催	学び合いの場②を9/16 にオンライン開催	実践セミナーを10/30に 富山県射水市で開催
	5-8	教育現場の実態把握と連携強化:①専門家【1 名(2時間)】 ②教育関係者【2回(各2時間)】	①中部大准教授・古澤氏 にヒアリング	②山田東中学校の教師 にヒアリング	②楠西小学校の教師に ヒアリング

仕様書業務項目		業務内容		実施・開催等の進行状況 ※集計等は3月22日に実施	
6 地域循環共生圏の創造推進業務	6-1	プラットフォーム支援:採択団体、登録団体、過年度採択団体への支援、ヒアリングの実施	PF七尾:4/19にヒアリングを実施	PF郡上:4/20に事務局打合せを実施	
	6-2	プラットフォーム意見交換会の支援【2団体×1回(3時間)】、とりまとめ報告	PF七尾:9/29に意見交換会を実施	PF郡上:11/10に意見交換会を実施	
	6-3-1	環境省・GEOC主催会合への参加・成果報告会【1回】、情報交換会【1回】、中間報告会【3回】	情報交換会6/1-2に出席	中間報告会①12/3、②12/6、③12/7に参加	成果報告会3/8に出席
	6-3-2	環境省・GEOC主催会合への参加:作業部会【2回】、共有会【3回】、ブロック別共有会【1回】	作業部会①9/10、②12/8に出席	共有会①5/12、②12/8、③3/9に出席	ブロック別共有会9/9に出席
	6-4	支援チーム派遣団体の情報共有	適宜実施		
	6-5-1	森里川海推進ネットワーク形成会合情報交換会【2回(2時間)】	白山手取川ジオパーク&白山ユネスコエコパーク情報交換会を3/2に第1回、3/3に第2回を開催		
	6-5-2	「資金調達のためのSDGs共感ストーリー」づくり WSプログラムの整理(1事例)	実施したWSをもとにプログラム整理		
	6-6	地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化情報交換会【4回(各2時間)、飯山市で6月迄】	①飯山会合6/26、②郡上会合1/27、③小浜会合2/4、④七尾会合2/23開催		
	6-7	GEOC事業主催会合への参加:検討会議【2回】、情報交換会【2回】	検討会議①9/22、②2/8に出席	情報交換会①11/30、②1/26に出席	
	6-8	担い手主体の把握・ネットワーク形成	PF事業応募予定の4-1越前の取組団体を2/3にヒアリング		
7 行動変容の把握	7-1	行動変容の把握:行事参加者へのヒアリング(3月中旬までに)【6事例】	①6-6飯山会合、②4-1越前フォーラム、③4-2小浜WS、④4-2長野フォーラム、⑤5-7-2実践セミナー、⑥5-6ESDダイアログの関係者にヒアリング		
	7-2	SDGs実践状況等の評価【試行2事例】	珠洲市、豊田市、岐阜市の事例を作成し、5-3ESDネットワークフォーラムで活用		
8 関係主体との連携及び協働に関する業務	8-1	事務所担当官と業務の責任者とで定期的な打合せ・報告、資料作成対応	月1回以上の定例打合せを計14回実施		
	8-2	外部評価委員会への出席【1回】、資料作成対応	業務報告資料、自己評価シートを作成・記入	2/14外部評価委員会にオンライン出席して実施業務の説明、質疑対応等を実施	
	8-3	白書を読む会の企画協力、広報協力、運営サポート	7/20開催の白書を読む会において、なごや環境大学による企画・広報・運営に協力		
	8-4	全国ユース中部大会に参画【1回】、審査委員の選定	中部大会YouTube動画の公開時に広報協力	審査委員に堺氏を推薦	
	8-5	記者発表等報道対応	5-6ESDダイアログ、5-7-2実践セミナーで地元メディアへのリリース等を地域側の関係者に依頼		
	8-6	GEOC主催の全国EPO連絡会議【2回】、その他関連会議等への参加・協力	連絡会①6/28-29に出席	連絡会②1/11に出席	
9	業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務		適宜実施		
10 外部資金を活用した事業	10-1	グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト(イベント開催支援)	福井:①7/31、②8/28代替活動実施	愛知:元気の森「手作り生きもの図鑑」完成(代替事業)	三重:「森林の紙芝居」完成(代替事業)
	10-2	地球環境基金	説明会を10/26に開催	応募団体情報提供協力	
	10-3	愛知県コーディネート業務【相談業務:10件/コーディネート業務:10件】	相談業務:10件実施 コーディネート業務:7件実施		
仕様書	1	地域ニーズの把握 2/15までに報告	協働コーディネーターへの書面ヒアリング、参加者アンケートの回収結果等を整理したものを中部地方環境事務所へ提出		
	2	環境省情報セキュリティポリシーの遵守及び情報セキュリティ体制等の届出	4/1提出済み		
	3	情報セキュリティ対策の報告、オフセット印刷又はデジタル印刷の工程における環境配慮チェックリスト、資材確認票	年間報告書の納品時に提出		

1 業務実施計画の作成及び公表

(1) 第6期の事業目標・事業計画

1. 第6期達成目標

アフター・コロナ、地域循環共生圏づくり・SDGs 活用が進みつつある中部エリアにおいて新フェーズに対応し、地域が必要とする協働・ESD・SDGs の実装・実践のための支援と、誰も取り残されないターゲット設定、EPO 機能強化の関係構築に取り組みます。

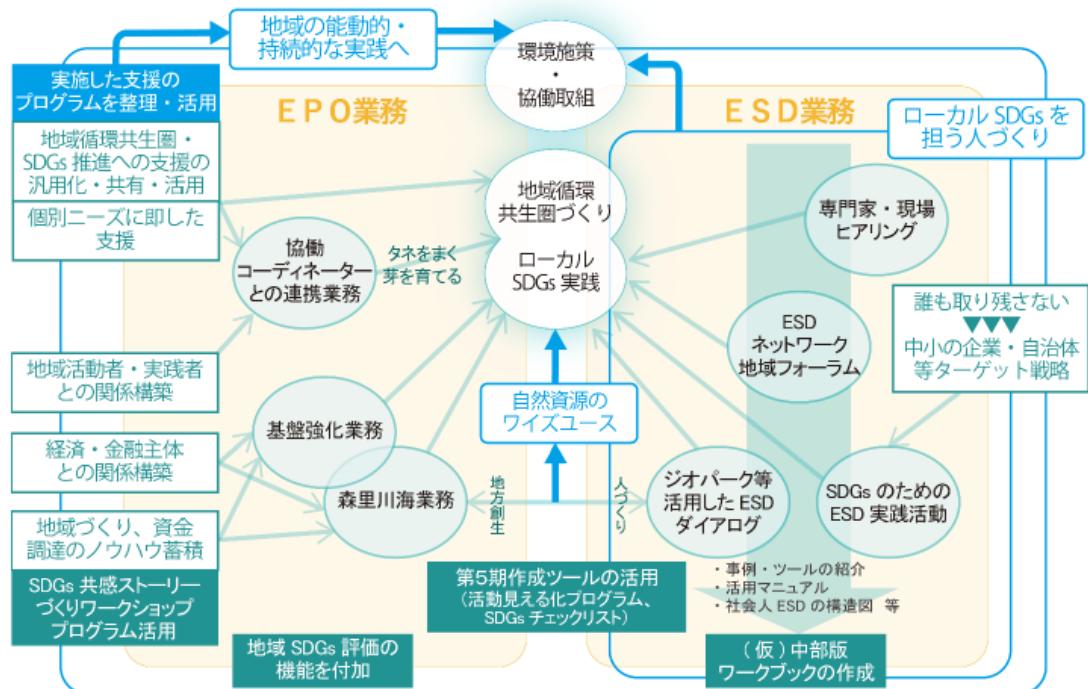
2. 方針

- (1) 地域循環共生圏づくりや SDGs 推進の支援にあたり、細やかな個別対応と、他の取組支援等への汎用化を行います。
- ① 【個別対応】地域／取組が必要とする支援を細やかに汲み上げると共に、これまでの協働取組への支援の経験やツールを活用するなどして、事例ごとに個別に対応した支援を展開します。
 - ② 【汎用化】EPO 中部が展開してきた支援内容の整理を行い、地域循環共生圏づくりや SDGs 推進のためのプログラム化とその実装・実践に取り組みます。
- (2) SDGs 推進・活用の取組において今後重要となる「目標設定」と「評価」について、第5期の作成ツール（活動見える化プログラム、SDGs チェックリスト等）や、外部団体による SDGs 指標ツール等を活用するなどして、独自の地域 SDGs 評価（SDGs の取組の現状等を評価する）機能の構築に取り組みます。
- (3) 上の(1)(2)の支援や多様なステークホルダーの巻き込みにおいて、第5期の運営会議等での指摘事項や抽出された課題等に留意し、次の EPO 機能の強化に取り組みます。
- イ) 資金調達に関わる主体（特に金融機関や経済団体等）との関係構築
 - ロ) 地域実践者である EPO 中部・協働コーディネーターとの関係強化と新たなネットワークづくり
 - ハ) 取り残されがちと指摘される中小の事業者・自治体等をターゲット設定した支援のあり方検討

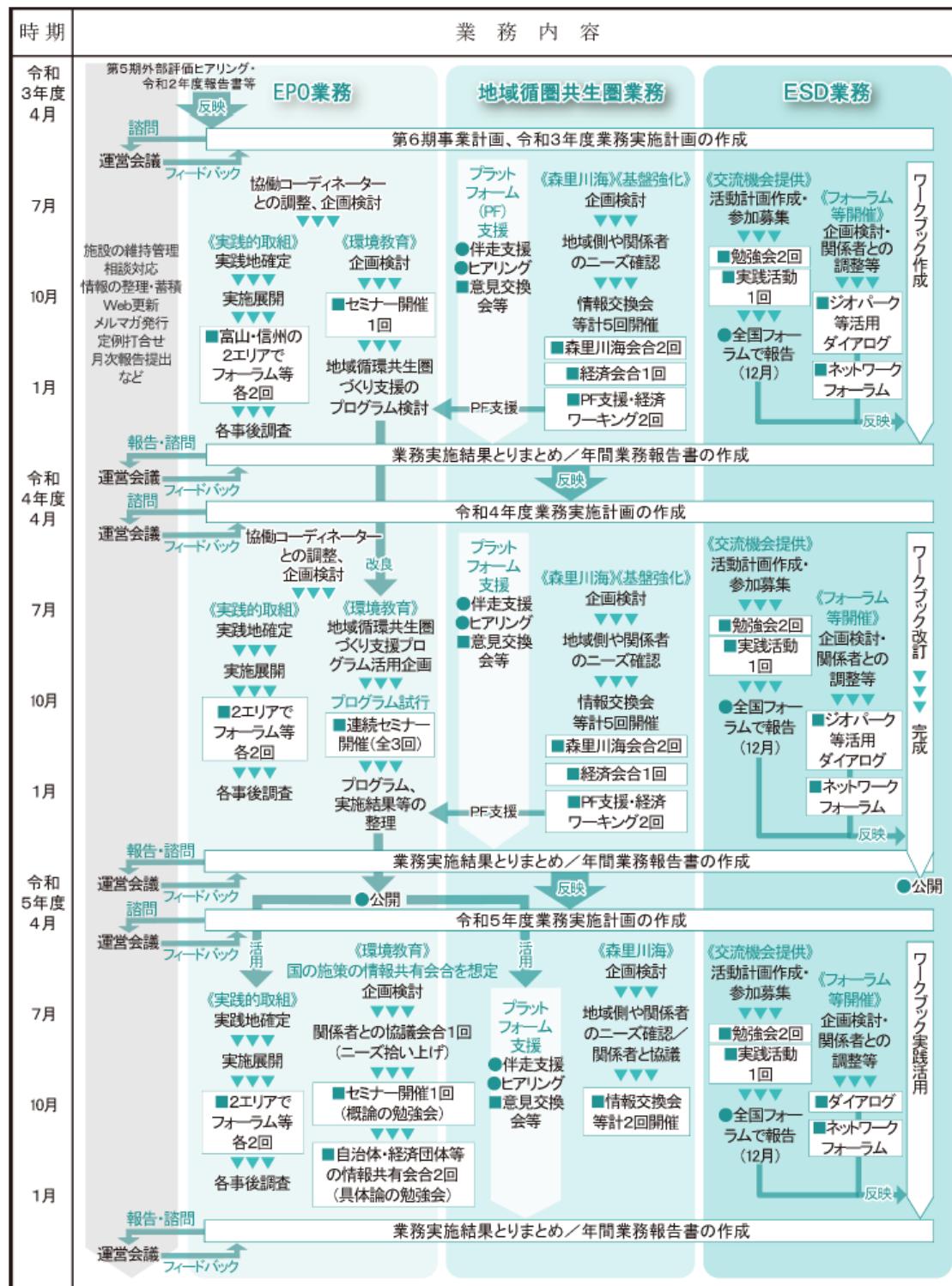
3. 3か年度（2021年度～2023年度）の目標、方針、事業

令和3年度	目標	第5期に EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターが作成したツール・コンテンツの拡充と共に、地域循環共生圏づくり・SDGs 推進への支援システム（体制・仕掛け）を充実させます。
	方針	<ul style="list-style-type: none">● 活動見える化プログラム、SDGs チェックリスト等のツールを活用した、地域に対する EPO 中部の支援機能に、SDGs の実践状況等を「評価」する新たな機能の付加に取り組みます。● 地域循環共生圏づくりや自然資源のワיז Yus 等で実施する「資金調達のための SDGs 共感ストーリー」づくりワークショップ（令和2年度実施）をプログラム化し、地域づくりにおける資金調達への認識・関心を喚起する支援のあり方を検討、整備します。● 環境施策×経済・ビジネス・金融（×必要に応じてその他分野）における関係構築を図り、地域循環共生圏づくりにおいて重要となる地域金融、地域ビジネスネットワークづくりに取り組みます。● SDGs に取り組むことの難しい中小企業等を対象に、ESD 実践支援の場の設営（勉強会等開催）と支援ツール「（仮）中部版 ESD ワークブック」を作成し、SDGs に取り組みやすくなる機会創出を図ります。
	事業	<ul style="list-style-type: none">・ 地域 SDGs 評価による支援方法の検討と構築・ 資金調達のための SDGs 共感ストーリーづくりワークショップの独自モデル／プログラムづくり・ 経済団体・金融機関等の環境施策に関連した意向把握のための会合開催、及び関心の高いテーマを対象にした情報共有会合等を試行的に実施・ 中小企業対象の勉強会等の開催、支援ツール「（仮）中部版 ESD ワークブック」プロトタイプ版の作成 <p>◆事業費見積：計 3,773 万円</p>

	<p>目標</p> <p>地域循環共生圏づくり支援への総括と、その汎用化・共有化によって地域循環共生圏づくり・ローカル SDGs 推進に向けて、地域が能動的、持続的に取り組む方策を提示します。</p>
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域循環共生圏づくり等に対する EPO 中部の支援を活用可能なプログラム等として整理し、前年度構築の地域 SDGs 評価メニュー／プログラムと共に、活用可能なコンテンツとして公開します。 ● 環境施策×経済・ビジネス・金融（×その他分野）の関係構築において、具体的な地域・事業におけるマッチング展開等を目指した取組を企画、実施します。 ● 中小規模の自治体等を対象にした ESD 実践勉強会の開催と、その実施結果を反映した支援ツールの完成・公表により、小さな地域／主体も SDGs 実践に取り組める素地づくりに取り組みます。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域循環共生圏づくりの支援モデルと SDGs 共感ストーリーづくりワークショップのプログラムづくりと公開、地域 SDGs 評価メニュー／プログラムの試験的実施とその検証及び公開 ● 環境施策×経済・ビジネス・金融プロジェクトにおけるマッチング展開企画とその実施 ● 中小規模自治体を対象にした勉強会等の実施、「（仮）中部版 ESD ワークブック」の作成・公開 <p>◆事業費見積: 計 3,700 万円</p>
	<p>目標</p> <p>最新の環境施策への対応と、ローカル SDGs 実践の地域支援の拠点として、次なるフェーズに向けた EPO 中部の地域支援機能の強化に取り組みます。</p>
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> ● 第6期に構築した地域循環共生圏づくり・SDGs 実践の支援プログラムや地域 SDGs 評価メニュー／プログラムを実践活用すると共に、EPO 中部の具体的な支援メニューの一つとして明示（PR活用）します。 ● 地域活動者と連携した協働取組等では、新たな地域活動者の人材確保にも取り組み、次期フェーズに向けた地域実践のためのネットワーク構築を図ります。 ● 「（仮）中部版 ESD ワークブック」を活用した ESD 実践のとりまとめイベントを開催し、中部エリアにおけるローカル SDGs を担う人づくりの 2030 年に向けた方向性を提示します。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域支援プログラム、地域 SDGs 評価メニュー／プログラムの実践活用、及び実践内容を事例コンテンツとして整理・公開 ● 新たな地域活動者とのネットワークづくり ● ESD 実践のためのとりまとめイベント開催 <p>◆事業費見積: 計 3,600 万円</p>



4. 業務フロー



5. 主な取組の3か年実施展開案

方針（1）

地域循環共生圏づくりや SDGs 推進の支援における個別対応と、他の取組支援等への汎用化

- ① 【個別対応】地域／取組が必要とする支援を細やかに汲み上げると共に、これまでの協働取組への支援の経験やツールを活用するなどして、事例ごとに個別に対応した支援を展開します。
- ② 【汎用化】EPO 中部が展開してきた支援内容の整理を行い、地域循環共生圏づくりや SDGs 推進のためのプログラム化とその実装・実践に取り組みます。

【概要】

- 地域循環共生圏づくりや SDGs 推進に取り組む地域への支援にあたり、地域それぞれの課題、進め方等に応じ、個別に支援内容・方法を組み立てる必要があります。そのため、地域のニーズや地域課題などを適切に把握し、支援対象の地域・主体それぞれに応じた支援を展開します（「個別対応」として3カ年度を通して実践します）。
- また、実施した支援内容や事例については、「活動見える化プログラム」等を用いて適宜整理してモデル化などを行い、中部エリア全体の地域循環共生圏づくりや SDGs 推進の底上げを図るために必要となる仕掛けについて分析、検討します。
- その個別対応モデルから EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターとしての地域支援の実績をプログラム等として整理し、具体的な個別支援に至る前段階にある地域においても活用できるものにし、中部エリアの地域循環共生圏づくりや SDGs 推進に取り組む地域が活用・参考にするためのコンテンツとして公開します。

【「汎用化」の進め方】

令和3年度 支援内容の整理（プログラム化）

- 令和3年度は、前期までに EPO 中部が実施してきた同時解決事業や地域循環共生圏 PF 事業等における地域支援の内容を整理するとともに、令和3年度の地域循環共生圏 PF 事業支援や主催イベント等で実施したワークショップ／ワーキングのプログラムを整理します。
- 特に、令和2年度に実施した森里川海ネットワーク形成会合業務で実施の自然資源のワיזユースにおける「資金調達のための SDGs 共感ストーリー」づくりワークショップについて、地域側のニーズがあった場合には令和3年度も実施し、そのワーキング内容等を整理し、プログラムの構築を目指します。

令和4年度 プログラムの試行・検証・改善

- 前年度までの地域循環共生圏づくり等に対する EPO 中部の支援実績と共に、その中で実施したワーキングのプログラム等（SDGs 共感ストーリーづくりワークショップのプログラム等）を、EPO 中部による支援メニュー化します。
- また、令和4年度の業務やイベント等で、連携する地域、協働コーディネーター等に EPO 中部支援実績、或いは EPO 中部独自の支援メニューとして提示し、地域側にニーズがあればそのプログラムを取り入れたワーキングを実施し、併せてプログラムに対する検証も行い、必要な改善も図ります。

令和5年度 プログラムの実装と公開

- 令和5年度は、第6期に構築したプログラムやツール等を地域づくり支援に関わる業務、イベント等で実践活用します。
- また、プログラムやツールは、地域循環共生圏づくりや SDGs 実践に取り組む地域にとっての参考情報・活用コンテンツとして公開します。
- 実践活用した内容も、プログラムの活用事例、或いは支援事例として併せて公開し、EPO 中部の実績等をPRするコンテンツとしての活用も図ります。

方針（2）

独自の地域 SDGs 評価（SDGs の取組の現状等を評価する）機能の構築

【概要】

- 第5期に作成した「SDGs チェックリスト」については、SDGs 実践に取り掛かりはじめたばかりの主体から活用したいとの問合せが複数あり、好評を得ている。
- 同時に、既に積極的に SDGs の実践を進めている主体からは、SDGs についての基本的な理解や 17 ゴールとの紐づけの次ステップとして、SDGs の取組状況への評価、目標設定に取り組むための方法等に対するニーズが聞かれるようになっている。
- また、令和2年度に実施した ESD ネットワーク地域フォーラムで活用した「SDGs 状況評価データ自治体レーダーチャート」（中部大学国際 GIS センター）など、様々な組織から SDGs 指標ツール／プログラム等が発行されている。
- 地域による SDGs 実践の進化や深掘りに資する支援として、既存の SDGs 関連ツール／プログラム等を整理し、「SDGs チェックリスト」に統一して中部エリアの自治体、企業等が活用可能な「地域 SDGs 評価」メニュー、或いは情報提供について検討する。

【業務の進め方】

令和3年度 「地域 SDGs 評価」のあり方検討

- 第5期に作成した活動見える化プログラム、SDGs チェックリスト等のツールに加え、地域循環共生圏づくりや SDGs 実践に取り組む地域の取組状況等の「評価」が可能となる既存の仕組みを整理するなどして、「地域 SDGs 評価」の支援方法の構築を目指した検討を行います。

令和4年度 「地域 SDGs 評価」の試験的な実施・検証

- 前年度の検討結果をもとに、「地域 SDGs 評価」のメニュー／プログラムを構築し、活用可能なコンテンツ（或いは情報提供素材）として公開します。
- 同時に、「地域 SDGs 評価」メニュー／プログラムを SDGs に関わる地域支援業務・イベントや相談対応などでニーズのあった案件において、試験的の導入し、検証等を行います。

令和5年度 支援内容の整理（プログラム化）

- 前年度に統一して、業務や相談対応等において「地域 SDGs 評価」メニュー／プログラムを実践活用し、メニュー／プログラムと実践事例を EPO 中部の具体的な支援メニューの一つとして明示（PR 活用）します。

方針（3）

地域支援や多様なステークホルダーの巻き込みにおける EPO 機能の強化

イ) 資金調達に関わる主体（特に金融機関や経済団体等）との関係構築

ロ) 地域実践者である EPO 中部・協働コーディネーターとの関係強化と新たなネットワークづくり

ハ) 取り残されがちと指摘される中小の事業者・自治体等をターゲット設定した支援のあり方検討

【概要】

イ 資金調達に関わる主体（特に金融機関や経済団体等）との関係構築	<ul style="list-style-type: none">地域循環共生圏関連事業（地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業等）において、経済・ビジネス・金融関係機関との関係構築を重視した地域ビジネスネットワークづくりに取り組みます。また、地域と経済・ビジネス・金融関係機関とのマッチングにつながる具体的な事例創出を目指します。
ロ 地域実践者である EPO 中部・協働コーディネーターとの関係強化と新	<ul style="list-style-type: none">第5期に引き続き、第6期でも協働コーディネーターと連携した地域実践の業務・イベントを開催します。加えて、これまでに連携・協力のあったその他の地域実践者・地域活動者を

たなネットワークづくり	含めた新たな地域展開のためのネットワーク形成を図り、将来の環境施策の動向、社会情勢に適応しつつ、中部エリアの各々の地域性にもできるだけ寄り添った業務・イベント展開を可能とする EPO 中部のシステム（体制・仕組み）の確保を目指します。
八 取り残されがちと指摘される中小の事業者・自治体等をターゲット設定した支援のあり方検討	<ul style="list-style-type: none"> 第5期運営会議委員等の学識者・専門家等から、SDGs 推進において、地場産品製造事業者や商店街等を含めた中小企業や小規模自治体の支援が重要になるとの指摘があったことをうけて、第6期では、中小企業・小規模自治体等の組織・団体を主なターゲットとした SDGs/ESD の実践支援を展開します。 具体的には、勉強会等の場の設営とともに、その実施結果や活用ツール、参加者の声等を盛り込んだ支援ツールを作成します。

【業務の進め方】

イ) 資金調達に関わる主体（特に金融機関や経済団体等）との関係構築

令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> 地域循環共生圏関連事業（地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業等）においては、経済団体・金融機関等の環境施策に対する意向の把握を目的とした接触機会（会合等）を積極的に設けます。 また、経済団体・金融機関等の意向及び、令和3年度の注目テーマとなる環境施策の動向等を踏まえつつ、環境施策×経済・ビジネス・金融（×その他分野）による情報共有の場、環境施策への理解促進の場などを設営します。
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の環境施策×経済・ビジネス・金融（×その他分野）の関係構築状況を鑑みつつ、継続しての関係構築、もしくは次ステップとして、具体的な地域・事業におけるマッチング等に対するニーズの抽出を図り、EPO 中部として可能な取組を企画し、実施します。
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度までに関係構築に取り組んだ経済団体・金融機関等とのつながりを活かし、地域循環共生圏づくりにおける地域環境ビジネス支援などを展開します。

ロ) 地域実践者である EPO 中部・協働コーディネーターとの関係強化と新たなネットワークづくり

令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> 第5期に続き、第6期においても協働コーディネーターと連携した地域循環共生圏づくり、SDGs 実践のための取組を展開します。 協働コーディネーターには EPO 業務を活用してもらうと同時に、EPO 中部が地域のニーズに即した業務・イベント展開の協力者・実践者として活躍してもらい、相互協力関係の強化を図ります。
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> 地域ニーズに即した業務・イベント展開において、協働コーディネーターとの協力による業務展開と共に、これまでに実施した業務の中で連携・協力を得た（協働コーディネーター以外の）地域実践者との関係構築・強化を目指した地域実践業務を実施します。
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> 地域実践者と連携した協働取組等において、従来の協働コーディネーターとの連携に加えて、新たな地域活動者との連携も積極的に確保し、次期フェーズに向けた地域実践において、EPO 中部が中部のどの（遠方）エリアとも、その地域の情勢、ニーズに適応した展開を可能とするためのネットワークを構築します。

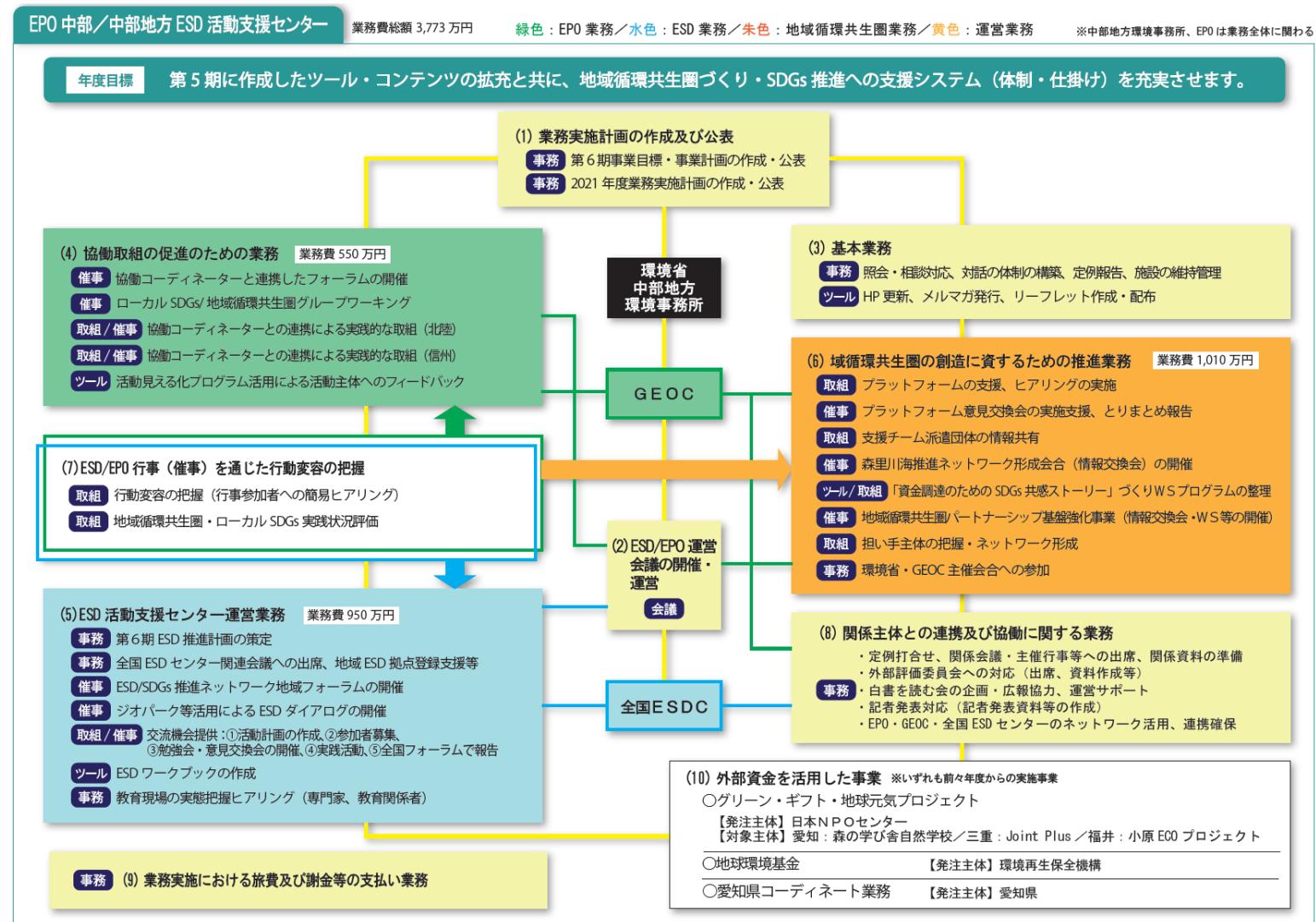
ハ) 取り残されがちと指摘される中小の事業者・自治体等をターゲット設定した支援のあり方検討

令和3年度	<ul style="list-style-type: none">小さな地域／主体も SDGs 実践に取り組める素地づくりとして、中小企業や小規模自治体等を主対象に想定した、SDGs／ESD 実践支援の場を設営（勉強会等開催）します。実践支援にあわせて、そこでの活用ツールとして「(仮)中部版 ESD ワークブック」（プロトタイプ版）等を作成するなどして、参加者（企業・自治体等）が SDGs に取り組みやすくなる仕掛けづくりにも取り組みます。
令和4年度	<ul style="list-style-type: none">前年度に続き、中小企業や小規模自治体等を主対象に想定した実践勉強会等を実施します。また、実践勉強会等の2カ年度の実施結果をとりまとめた支援ツール「(仮)中部版 ESD ワークブック」の完成版を作成し、勉強会等に参加できなかった団体も活用できるよう公開します。
令和5年度	<ul style="list-style-type: none">「(仮)中部版 ESD ワークブック」を広く活用してもらうことと、ESD 実践勉強会の総括として、《取りまとめイベント》を開催します。《取りまとめイベント》では、参加者と共に、中部のローカル SDGs を担う人づくりのあり方についてディスカッション（共有）します。

(2) 令和3年度業務実施計画

ア 作成した業務実施計画

(ア) 業務概要



期標 第6目 アフター・コロナ、地域循環共生圏づくり・SDGs活用が進みつつある中部エリアにおいて、新フェーズに対応し、地域が必要とする協働・ESD・SDGsの実装・実践のための支援と、誰も取り残されないターゲット設定、EPO機能強化の関係構築に取り組みます。

(イ) 業務スケジュール

2021年度業務スケジュール (修正)

仕様書業務項目	業務内容(イベント:オンライン活用・併用)	担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 業務実施 計画作成・公表	1-1 第6期の事業目標・事業計画の作成・公表	富田	作成	運営会議への提示	修正→公開						実際のスケジュール反映	再掲載		
	1-2 令和3年度の業務実施計画の作成・公表	富田			修正→公開									
2 運営会議	ESD/EPO運営会議の開催・運営【2回】	清本、原、富田、小松	資料作成、開催準備・調整	運営会議1開催(オンライン)	開催結果とりまとめ→公開						資料作成、開催準備・調整	運営会議2開催(オンライン)	開催結果とりまとめ→公開	
3 基本業務	3-1 HP(EPO、ESD)の更新維持管理	富田、小松	月2回以上の更新を適宜実施											
	3-2 メールマガジンの作成・発行	小松	月1回以上の配信を適宜実施											
	3-3 リーフレットの作成・配布	富田、小松			第6期計画を反映した原稿を作成	デザイン	印刷	新リーフレット完成・公開、配布開始						
	3-4 照会、相談対応、対話の体制の構築	清本、原、富田、小松	適宜実施し、記録及び報告											
	3-5 定例報告	富田、小松	毎月初めに報告資料を集計・作成、提出											
	3-6 施設の維持・管理	富田、小松	適宜実施											
4 協働取組の促進のための業務	4-1 協働コーディネーターと連携したフォーラム開催【1回(3時間)】	清本、原、富田、小松	各連携主体にヒアリング ↓企画案等を作成	協働コーディネーターとの調整	運営会議1に詰る	関係地域・団体との調整・準備	フォーラム開催					運営会議2に詰る		
	4-2 協働コーディネーターとの連携による実践的な取組【北陸2回・信州2回(各2時間)】					協働コーディネーターとの調整	関係地域・団体との調整・準備	フォーラム開催	関係地域・団体との調整・準備	フォーラム開催	関係地域・団体との調整・準備	フォーラム開催		
	4-3 活動主体へのフィードバック(活動の見える化プログラムの活用)【北陸1、信州1事例】					フィードバック	見える化Pヒアリング→作成							
	4-4 ローカルSDGs/地域循環共生圏グループワーキング【1回(3時間)】/愛知県内】		企画案作成					関係者との調整・準備	ワーキング開催					
5 中部地方 ESD活動 支援センター運営業務	5-1 ESDワークブックの作成	原、小松	ブックの企画検討				コンテンツの作成	プロトタイプ完成						
	5-2 ESD活動支援: 第6期ESD推進計画の策定	原	計画策定			修正								
	5-3 ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォーラムの開催【1回(半日)】/愛知県内】	原、富田、小松	企画案作成				関係機関との調整・準備		フォーラム開催					
	5-4 全国ESDセンター運営会議【2回】/連絡会【2回】、全国フォーラム【1回】等に出席・参加	原	適宜対応											
	5-5 地域ESD拠点登録支援	原、小松	適宜実施											
	5-6 ジオパーク等活用(ESDダイアログの開催)【1回(2時間)】	原、富田、小松				関係機関との調整・準備	ダイアログ開催							
	5-7-1 交流機会提供 ①活動計画の作成、②交流者の参加募集 ⑤全国フォーラム結果報告	原、小松	①活動計画の作成			関係機関との調整・準備								
	5-7-2 交流機会提供 ③勉強会・意見交換会【2回(各1時間)】 ④実践活動【1回(2時間)】	原、富田、小松	②参加募集			③勉強会・意見交換会1	③勉強会・意見交換会2	④実践活動						
	5-8 教育現場の実践把握と連携強化:①専門家【1名(2時間)】 ②教育関係者【2回(各2時間)】	原	企画案等を作成			ヒアリング実施①						ヒアリング実施②		

2021年度業務スケジュール（修正）

仕様書業務項目	業務内容(イベント:オンライン活用・併用)	担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
6 地域循環共生圏の創造推進業務	6-1 プラットフォーム支援:採択団体、登録団体、過年度採択団体への支援、ヒアリングの実施	富田	各PFIにヒアリング実施	とりまとめ報告	各団体のサポート計画(スケジュール・意向等)に応じて適宜支援				中間報告	次年度展開の事務局打合せ			成果報告	
	6-2 プラットフォーム意見交換会の支援【2団体×1回(3時間)】、とりまとめ報告	清本、原、富田				実施方法等についてPFIと調整	PF2団体それぞれで意見交換会開催		とりまとめ報告					
	6-3-1 環境省・GEOC主催会合への参加:成果報告会【1回】、情報交換会【1回】、中間報告会【3回】	清本、富田	適宜参加											
	6-3-2 環境省・GEOC主催会合への参加:作業部会【2回】、共有会【3回】、ブロック別共有会【1回】	清本、富田	適宜参加											
	6-4 支援チーム派遣団体の情報共有	清本、原、富田	適宜実施											
	6-5-1 森里川海推進ネットワーク形成会合情報交換会【2回(2時間)】	富田	関係主体へのヒアリング	運営会議1に		関係団体との協議・調整			運営会議2に報告					情報交換会1・2
	6-5-2 「資金調達のためのSDGs共感ストーリー」づくりWSプログラムの整理	原、富田		計画案等を詰める					プログラム整理		完成・公開			実施開催結果報告とりまとめ
	6-6 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化情報交換会【4回(各2時間)、飯山市で6月迄】	富田	関係主体への企画案作成	準備	飯山市開催			関係機関等との調整、準備	準備	②③④開催				
	6-7 GEOC事業主催会合への参加:検討会議【2回】、情報交換会【2回】	清本、富田	適宜参加											
	6-8 担い手主体の把握・ネットワーク形成【2団体】	清本、原、富田					対象団体検討	ヒアリング実施		結果とりまとめ				
7 行動変容の把握	7-1 行動変容の把握:行事参加者へのヒアリング(3月中旬までに)【6事例】	清本、原、富田								業務の連携・協力者6団体へのヒアリング、結果とりまとめ				
	7-2 SDGs実践状況等の評価【試行2事例】	原	計画案作成	運営会議1に詰める	SDGs等の実践状況等の評価方法整理		相談対応等あった団体2ケースでの試行実施		結果とりまとめ	運営会議2に詰める				
8 關係主体との連携及び協働に協力する業務	8-1 事務所担当官と業務の責任者とで定期的な打合せ・報告、資料作成対応		適宜実施(月1回以上の打合せ)											
	8-2 外部評価委員会への出席【1回】、資料作成対応	清本、原、富田、小松							資料作成		外部評価委員会出席			
	8-3 白書を読む会の企画協力、広報協力、運営サポート		名古屋市との調整、協力事項確認	名古屋市側のスケジュール等に応じて適宜実施	白書を読む会開催									
	8-4 全国ユース中部大会に参画【1回】、審査委員の選定	清本					審査委員の推薦							ユース中部大会オンライン視聴
	8-5 記者発表等報道対応	富田	適宜実施											
	8-6 GEOC主催の全国EPO連絡会議【2回】、その他連合会議等への参加・協力	清本、富田	適宜参加											
9 業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務	小松、小栗	適宜実施												
10 外部資金を活用した事業	10-1 グリーン・ギフ・地球元気プロジェクト(イベント開催支援)	清本、小栗	日本NPOセンターの枠組みに則り適宜実施											
	10-2 地球環境基金	清本、小松	環境再生保全機構の枠組みに則り適宜実施		関係機関等との調整、準備		説明会開催							
	10-3 愛知県コーディネート業務【相談業務:10件／コーディネート業務:10件】	清本、服部	愛知県(環境局環境活動推進課)の仕様書に則り適宜実施											

(ウ) 定量的な達成目標（インプット・アウトプット）の設定

EPO中部令和3年度事業アウトプット目標等一覧

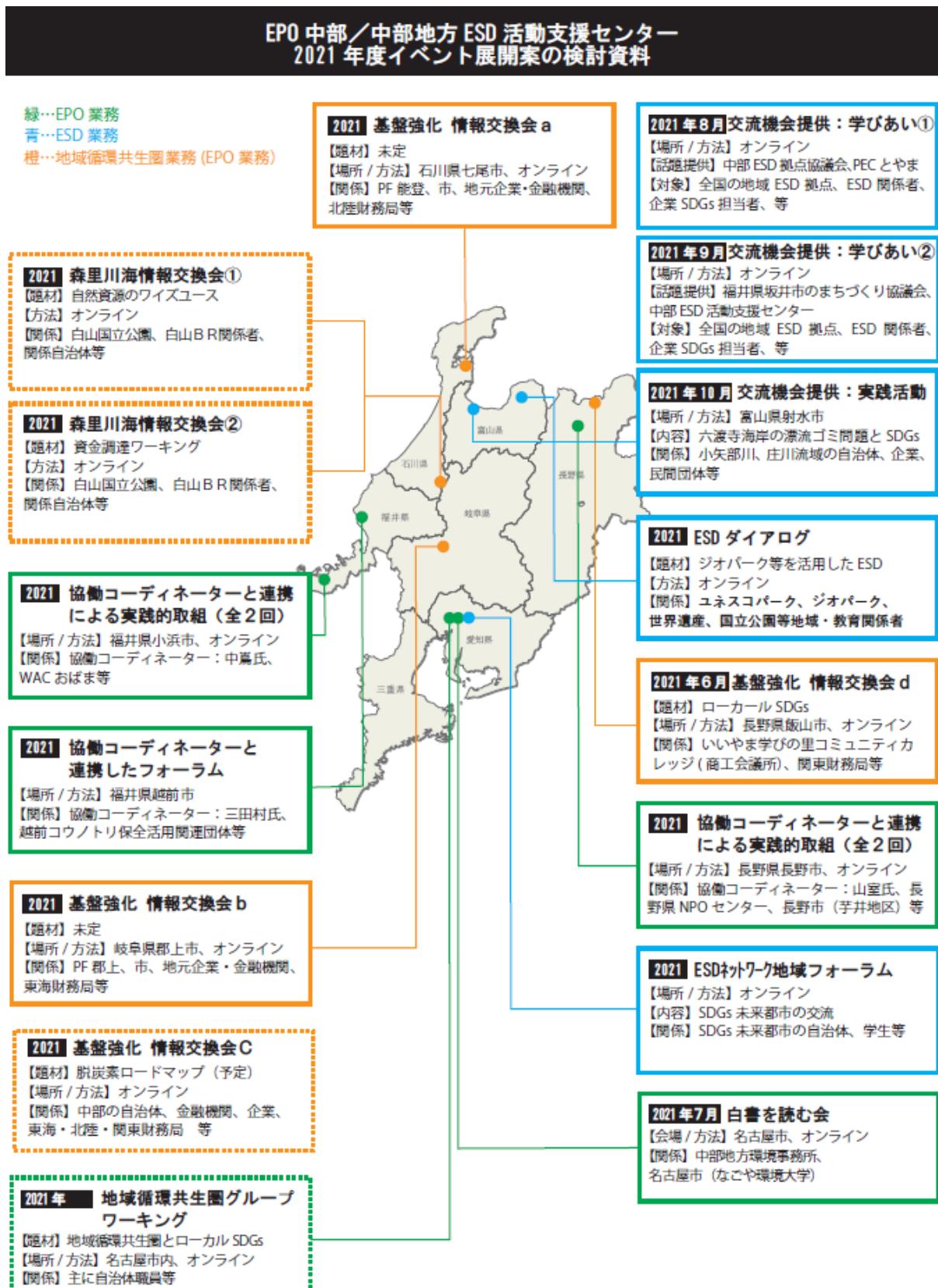
仕様書業務項目	業務内容	担当	インプット(仕様書・計画書)		アウトプット(指標)	アウトカム指標(アウトプット評価)	アウトカム(予想される成果)	備考
			外部関係者との連携	催事、情報発信	調査、研究、作成、支援	コンテンツ等、情報の発信	設備・システム・知見など	
1 業務実施計画作成・公表	1-1 第6期の事業目標・事業計画の作成・公表	富田	・外部有識者:必要に応じて助言		・第6期事業の達成目標及び事業計画の作成 ・第6期業務実施計画書 ・アウトプット、アウトカム目標、指標の検討	・第6期業務実施計画書 ・第6期アウトプット、アウトカム目標	参加者(数)、対象者(数)	・「第6期、運営委員会等関係者によるEPO中部ESD計画としての第6期全体の十分な認証 ・第6期企画目標の基本方針にについての担当官、運営委員等の理解」 ・「令和3年度業務実行計画として事業推進の内容が見える化される。 ・事業会合についてアウトプット、アウトカムの評価が可能となる。 ・運営委員より有用な意見をいただくとともに業務に積極的な参考を得て効果的な活動を展開に寄与する。
	1-2 令和3年度の業務実施計画の作成・公表	富田	・外部有識者:必要に応じて助言		・令和3年度の業務実施計画の作成 ・アウトプット、アウトカム目標、指標の検討	・令和3年度業務実施計画書 ・第6期アウトプット・アウトカム目標一覧表		・「令和3年度業務実行計画として事業推進の内容が見える化される。 ・それぞれの業務についてアウトプット、アウトカムの評価が可能となる。 ・担当官、運営委員の理解」
2 運営会議	ESD/EPO運営会議の開催・運営【2回】	清木、原、富田、小松	・外部有識者:運営委員として議論参加、助言	ESD/EPO中部運営会議(2回オンライン開催)	・9名程度の運営委員(6~3級相当)で構成 ・年1回以上、委員の情報(役職、所属)に変更がないか確認 ・運営委員に業務参画を促すための進捗状況情報を適宜提供	・会議資料、議事録		・各回7名以上の参加 ・業務を活用された運営委員による有用な意見(議事録) ・業務に運営委員の積極的な参画を得た見知りの活用(業務記録)
3 基本業務	3-1 HP(EPO、ESD)の更新維持管理	富田、小松	・専門事業者:相談(外注)		・HPの更新	・HPのページ更新(月2回以上)	・ページビュー数(昨年度同水準以上) ・更新されたHPに対するご意見(運営会議委員ご意見など)	・更新前よりよりHPに対するご意見(運営会議委員ご意見など) ・HPによるEPO、ESDの認知の拡大と好感度の向上
	3-2 メールマガジンの作成・発行	小松			・メールマガジンの作成・発行	・メールマガジン(月1回以上)	・発行部数(昨年度同水準以上) ・発行部数の維持、コンテンツに対するご意見(運営会議委員ご意見など)	・HPによるEPO、ESDの認知の拡大と好感度の向上、情報利用の拡大
	3-3 リーフレットの作成・配布	富田、小松	・デザイン・印刷:外注		・リーフレットの作成・配布(印刷必要部数)	・リーフレット(必用に応じて情報更新)A4フルカラー必要部数	・配布部数(昨年度同水準以上) ・配布部数の増加、リーフレットに対するご意見(運営会議委員ご意見など)	・リーフレットによるEPO中部ESDの認知の拡大と好感度の向上
	3-4 照会・相談対応、対話の体制の構築	清木、原、富田、小松	・外部の様々な活動団体:活動等参加先		・相談・照会対応と助言、実施内容の記録 ・各種協議会や地域活動等への参加と情報収集、マッチング支援や助言	・照会・相談の記録簿 ・各種協議会や地域活動等への参加と情報収集、マッチング支援や助言 ・業務日報等の開運文書の作成と報告	・紹介・相談件数 ・資料取集数、記録件数 ・記録件数、記事件数の増加 ・講師派遣件数の増加 ・事務担当官の状況把握と理解	・全体件数の増加、助言に対する要請 ・紹介・相談による環境保全活動等への貢献 ・関連する情報の累積、連携、協働の構築 ・講師派遣件数の増加 ・事務担当官の状況把握と理解 ・円滑な活動を支える職務・業務環境の維持
	3-5 定例報告	富田、小松			・施設の維持・管理		・職員、来訪者、利用者の施設空間に対する意見	
	3-6 施設の維持・管理	富田、小松						
4 協働取組の促進のための業務	4-1 協働コーディネーターと連携したフォーラム開催【1回(3時間)】	清木、原、富田、小松	・協働コーディネーター、地域関係者との連携	・フォーラム(オンライン、1回、3時間、30名程度)		・開催記録	・参加者30名程度 ・参加者の意識(アンケート)、ご意見や感想(ヒヤリング、アンケート)	・参加した関係者の意識向上、認知の拡大、知見の増加
	4-2 協働コーディネーターとの連携による実績的な取組【北陸2回(信州2回)】	清木、原、富田、小松	・協働コーディネーター、地域関係者との連携	・実績の取組(オンライン、4回程度(北陸2回程度、信州2回程度)、各2時間程度、30名程度)		・開催記録	・参加者30名程度、学識者1名参加 ・中間支援団体等との連携協力実績	・参加者の意識(アンケート)、ご意見や感想(ヒヤリング、アンケート)
	4-3 活動主体へのフィードバック(活動の見える化プロセス)【1回(3時間)】	清木、原、富田、小松	・協働コーディネーター、地域関係者との連携	・協働コーディネーター、地域関係者との連携	・活動内容のヒヤリングと活動見える化プログラム分析	・ヒヤリング記録(2事例) ・分析チャート(2事例)	・分析対象主体や関係者の感想、意見	・分析対象主体の取組構造とSDGs実現の意識の認識の向上
	4-4 ローカルSDGs/地域循環共生圏グレーディング【1回(3時間)】	清木、原、富田、小松	・NPO・基礎自治体、事業者等	・グループワークシング(オンライン依頼、1回、3時間程度、愛知県内会議至20名程度、講師1名(大学教授級))		・開催記録	・参加者20名程度、学識者1名参加 ・参加者の意識(アンケート)、ご意見や感想(ヒヤリング、アンケート)	・参加した関係者の意識向上、認知の拡大、知見の増加
5 中部地方ESD活動センター運営業務	5-1 ESDワークショップの作成	原、小松	・有識者によるWG	・有識者によるWG	・ワークショップ作成のための調査、情報収集 ・(約)中部版ESDワークショップへ学生・社会人のための地域社会SDGs実践(プロトタイプ版)の作成	・ワークショップVr.1のコンテンツ	・関連する実例 ・「キックオフ会議3回 ・参加者、有識者と実務者計3人」	・ワークショップVr.1活用試行実績とご意見
	5-2 ESD活動支援:第6期ESD推進計画の策定	原	・運営会議委員				・第6期中部地域ESD推進計画(仮称)	
	5-3 ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォーラムの開催【1回(半日)】	原、富田、小松	・中部地方大学研究室、地方自治体、企業等	・中部地方大学研究室、中部地方自治体、企業等	・ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォーラム内オンライン】	・活動分析へのSDGsチェックリストの概念	・開催記録 ・フォーラム参加20名程度 ・参加者の意識等(アンケート)、ご意見や感想(ヒヤリング、アンケート)	・参加者20名程度、学識者1名参加 ・参加者の意識(アンケート)、ご意見や感想(ヒヤリング、アンケート)
	5-4 全国SDセンター運営会議【2回】	原	・全国SD活動支援センター、地域ESD活動支援センター	・全国SD活動支援センター、地域ESD活動支援センター	・会議出席・委員会による情報収集と整理(企画運営委員会オンライン、2回程度、各半日)、全国SD連絡会(オンライン、2回程度、各半日)、ESD推進ネットワーク全国フォーラム(オンライン、各2回程度)		・参加による記録等の情報共有	・中部SD活動支援センター活動に反映させるべき見知りの整理結果 ・ESDの全国センター動向の把握
	5-5 地域ESD拠点登録支援	原、小松	・地域ESD拠点関係者				・ESD拠点登録数	・ESD拠点関係者の意見や感想(ヒヤリング)
	5-6 ジオパーク等活用(ESDダイアログの開催)【1回(2時間)】	原、富田、小松	・ジオパーク等、環境省地域資源・専門家等のゲスト:講演、話題提供、講演	・ジオパーク等のゲスト:講演、話題提供、講演	・「自然資源を活かした地域、人づくりESDダイアログ」の開催【1回】半日程度	・ダイアログ開催記録	・参加者20名程度 ・参加者の意見(アンケート)、ご意見や感想(ヒヤリング、アンケート)	・参加した関係者の意識向上、認知の拡大、知見の増加
	5-7-1 交流機会提供 ①活動計画の作成、②交流会の参加募集 ③全国フォーラム結果報告【1回(2時間)】	原、小松	・全国ESD活動支援センター、地域ESD活動支援センター、地域SDG拠点	・全国ESD活動支援センター、地域ESD活動支援センター、地域SDG拠点	・活動計画の作成 ・交流会の参加募集(全国センターのネットワークで講習)	・活動計画書 ・活動報告書(全国フォーラム報告書)	・勉強会・意見交換会【1回(各1時間)】の~20名 ・実践活動【1回(2時間)】	・参加者の意見(アンケート)、ご意見や感想(ヒヤリング、アンケート)
	5-7-2 交流機会提供 ③勉強会・意見交換会【2回(各1時間)】	原、富田、小松	同上	・実践活動【1回(2時間)】	・勉強会・意見交換会【2回(各1時間)】 ・実践活動【1回(2時間)】		・勉強会・意見交換会【2回(各1時間)】の~20名 ・実践活動【1回(2時間)】20名	・同上
	5-8 教育現場の実態把握と連携強化:①専門家1名(2時間) ②教育関係者1名(2時間) ③教育関係者2名(各2時間)	原	・SDGs・ESDに詳しい専門家 ・SDGsに詳しい専門家 ・SDGsに詳しい専門家 ・SDGsに詳しい専門家	・専門家への包摂的ヒアリング(オンライン、2時間程度、1回、大学教授級1名想定) ・教育関係者へのヒアリング(オンライン、2時間程度、2回程度)		・ヒヤリング結果	・有意義な知見の入手	・ESD・SDGs専門領域との連携強化 ・ESD・SDGsの教育現場との連携強化

EPO中部令和3年度事業アウトプット目標等一覧

仕様書業務項目	業務内容	担当	インプット(仕様書・計画書)		アウトプット(指標)		アウトカム(アウトプット評価に加え)	アウトカム(予想される成果)	備考
			外部関係者とその役割	催事、情報発信	調査、研究、作成、支援	コンテンツ等、情報の発信、記録	設備・システム・知見など	参加者(数)、対象者(数)など	
地域循環共生圏の創造推進業務	6-1 プラットフォーム支援:採択団体、登録団体、過年度採択団体への支援、ヒアリングの実施	富田	・採択団体、登録団体、過年度採択団体、取組関係者、GEOC	・環境整備プロセス支援(2団体程度、各2回程度現地支援)としての、構造策定・事業計画策定・ステークホルダーの組織化の各過程に亘る支援(関係者との意見交換会、企画運営会議等にかかる支援)、小規模支援(登録団体への支援)、登録団体の支援、採択団体がマニダラ作成を通じての採択整備・協働取組の各過程の支援、事業発掘のプロセス支援)	・伴走支援の記録 ・新規採択団体の事業構成の各過程に亘る支援(関係者との意見交換会、企画運営会議等にかかる支援)、登録団体の支援、採択団体がマニダラ作成を通じての採択整備・協働取組の各過程の支援、事業発掘のプロセス支援)	・地域循環共生圏組みの伴走等支援についての知見 ・企画支援計画等(GEOC提出)	・環境整備のプロセスにかかる支援(2団体程度、各2回程度現地支援)	・担当官、専門家等の関係者のご意見や感想	・地域循環共生圏の取組に対する適切な伴走支援方法とその効果についての知見の蓄積
	6-2 プラットフォーム意見交換会の支援【2回体×1回(3時間)】、とりまとめ報告	渕木、原、富田	・採択団体、登録団体、過年度採択団体、取組関係者、GEOC	・各活動(採択団体が行う環境整備を推進するための意見交換会(オンライン、2団体程度、各1回、3時間程度、30人程度)の後方支援、当日運営(進行、議事録の作成等、Web会議の場合は機会)	・開催結果を取りまとめとGEOCへの報告	・意見交換会等開催記録	・意見交換会見える化プログラム等活用件程度、概念活用件程度	・意見交換会開催実績(オンライン、2団体程度、各1回、3時間程度、30人程度)	・参加者の意識、ご意見や感想(アンケート、ヒヤリング)
	6-3-1 地域循環共生圏会合への参加:成果報告会【1回】、情報交換会【1回】、中間報告会【3回】	渕木、富田	・採択団体、登録団体、過年度採択団体、取組関係者、本省、GEOC	・環境整備会合への参加(採択団体、登録団体、取組関係者、本省、GEOC)	・環境整備会合の開催報告書等提出(オンライン、回、2回、3月) ・GEOC主催情報交換会(オンライン、1回、2月、5月)、中間報告会(オンライン、3回、1回あたり3時間程度) ・中間報告会での活動(採択団体の資料作成等支援と意見交換会)	・開催結果の記録	・参加による情報共有 ・資料作成等支援と意見交換会	・関係者のご意見	・採択団体との情報共有によるネットワーク形成
	6-3-2 地域循環共生圏会合への参加:作業部会【2回】、共有会【3回】、ブロック別共有会【1回】	渕木、富田	・採択団体、登録団体、過年度採択団体、取組関係者、本省、GEOC	・GEOC主催作業部会(オンライン、2回程度、1回あたり3時間程度)、共有会(オンライン、3回、1回あたり3時間程度)、ブロック別共有会(オンライン、地域ブロック毎に1回程度)参加	・GEOC主催作業部会(オンライン、2回程度、1回あたり3時間程度)、共有会(オンライン、3回、1回あたり3時間程度)、ブロック別共有会(オンライン、地域ブロック毎に1回程度)参加	・参加による情報共有	・関係者のご意見	・採択団体との情報共有によるネットワーク形成	
	6-4 支援チーム派遣団体の情報共有	渕木、原、富田	・支援チーム、派遣対象団体(2団体)	・支援チーム、派遣対象団体(2団体)	・支援状況把握の記録 ・助言の記録	・派遣状況把握の記録 ・助言の記録	・対象団体情報	・採択団体との情報共有によるネットワーク形成	
	6-5-1 芽森川海推進ネットワーク形成会合情報交換会【2回(2時間)】	富田	・地域の一次産業・三次産業、さらに地域の自治体、企業、金融機関	・森川里海推進ネットワーク形成会合(情報交換会)の実施(オンライン、2回程度、2時間程度、30名程度、講師(大学准教授級、1名想定)	・森川里海推進ネットワーク形成会合記録	・参加者30名程度(各回) ・講師(大学准教授級、1名想定、各回)	・参加者の意識、ご意見や感想(アンケート、ヒヤリング) ・森川里海推進の促進のための地域自然資源のハイクース重要性の共有、ネットワークの形成		
	6-5-2 「資金調達のためのSDGs共感ストーリーづくりワーキングプログラムの整理	原、富田		・資金調達のためのSDGs共感ストーリーづくりワーキングプログラム整理	・資金調達のためのSDGs共感ストーリーづくりワーキングプログラム整理	・参加者30名程度(各回) ・参加者の意識、ご意見や感想(アンケート、ヒヤリング)	・参加者の意識、ご意見や感想(アンケート、ヒヤリング) ・「共感」を重視したワーキングプログラム		
	6-6 地域循環共生圏バーチャルサミット強化情報交換会【4回(各2時間)、飯山市で6月迄】	富田	企業及び地域金融や経済団体	・情報交換会の開催(オンライン、4回程度、2時間程度、30名程度、講師(大学准教授級、1名想定)	・参加者30名程度(各回) ・参加者の意識、ご意見や感想(アンケート、ヒヤリング)	・地域循環共生圏の創造促進のための情報の共有、ネットワークの形成			
関係主体との連携及び協力に寄する業務	6-7 GEOC事業主催会合への参加:検討会議【2回】、情報交換会【2回】	渕木、富田	・GEOC	・事業検討会議に参加(オンライン、2回程度、3時間程度)	・参加による情報共有(オンライン、2回程度、3時間程度)	・関係者のご意見	・関係者のご意見によるネットワーク形成		
	6-8 担い手主体の把握・ネットワーク形成【2回】	渕木、原、富田	・6-1から6-7の関係者	・地域循環共生圏に通じる担い手(団体等)に向けた情報の提供と地域循環共生圏に開かれた情報を提供するほか、関係性を構築する(2団体程度)	・地域循環共生圏に通じる担い手団体の意見や感想	・地域循環共生圏に通じる担い手団体の意見や感想	・地域循環共生圏の意識の向上		
	7 行動変容の把握:行事参加者へのヒアリング(3月中旬までに)【6例】	渕木、原、富田	・4から6の関係者	・行動変容のためのコアメンバーに対する簡易的ヒアリング(電話、メール等)	・行動変容のためのコアメンバーに対する簡易的ヒアリング(6事例程度)	・行動変容のためのコアメンバーに対する簡易的ヒアリング	・地域循環共生圏構築実行など持続可能な社会に貢献する行動変容		
	7-2 SDGs実践状況等の評価【2行2事例】	原	・関係する専門家等	・地域SDGs評価メニュー、プログラム等の情報収集と活用	・地域SDGs評価メニュー、プログラム等の活用実績	・地域SDGs評価メニュー、プログラム等の活用効果測定	・地域SDGs評価メニュー、プログラム等の活用効果測定		
	8-1 事務所担当官と業務の責任者との定期的打合せ(月1回以上)	渕木、原、富田、小松		・定期的打合せ(月1回以上)	・月次報告書の作成	・対応資料	・関係者の意見	・中部地方環境事務所との協働による円滑な運営	
	8-2 外部評価委員会への出席【1回】、資料作成対応	渕木、原、富田、小松		・白書を読み会の企画運営サポート	・白書を読み会の企画運営サポート	・企画運営サポート記録	・関係者の意見	・中部地方環境事務所との協働による円滑な運営	
	8-3 白書を読み会の企画協力、広報協力、運営サポート	渕木、原、富田、小松		・全国ユース大会への参画、審査員選定	・全国ユース大会への参画、審査員選定記録	・審査員選定記録	・関係者の意見	・中部地方環境事務所との協働による円滑な運営	
	8-4 全国ユース中部大会に参画【1回】、審査員の選定	渕木		・プレスリリース資料の作成、実施(必用に応じて)	・プレスリリース資料(必用に応じて)	・プレスリリース(必用に応じて)	・関係者の意見	・EPO中部の認知度の向上	
	8-5 記者発表等報道対応	富田				・全国情報の情報		・関係者の意見	
	8-6 GEOC主催の全国EPO連絡会議【2回】、その他の開会議等への参加・協力	渕木、富田	・GEOC:全国EPO連絡会議【2回】、その他の開会議等への参加・協力			・支払い記録	・会計部署の承認	・適正支出の明確化	
9 業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務	10-1 グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト(イベント開催支援)	渕木							
	10-2 地球環境基金による「一票投票」	渕木、小松							
	10-3 相談業務:10件/月+ネット業務:10件/月	渕木、原							
10 外部資金を活用した事業	10-1 グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト(イベント開催支援)	渕木							
	10-2 地球環境基金による「一票投票」	渕木、小松							
	10-3 相談業務:10件/月+ネット業務:10件/月	渕木、原							

(エ) イベント開催における連携地域と開催方法等の一覧

- 業務実施計画書の作成にあたり、次図の通り、実施予定イベントの企画検討を行い、連携する地域・組織、及び開催方法について想定・整理を行った。



(3) 第6期事業計画及び業務実施計画の公表

- 作成した第6期事業計画及び業務実施計画については、EPO中部ウェブサイトに掲載、公開した。
- また、中部地方ESD活動支援センターウェブサイトについても、EPO中部ウェブサイトへ直リンク方式で掲載した。

【EPO中部ウェブサイト】

The screenshot shows the EPO中部 website's layout. At the top, there is a green header bar with the text 'EPO中部とは' (EPO中部 About) in white. Below the header, there is a main content area with a dark green header bar containing the text '第6期のEPO中部及び中部地方ESD活動支援センターの目標と方針' (Goals and Policies of the 6th Period EPO中部 and Central Local ESD Activity Support Center). The main content area contains several sections: '第6期の達成目標' (Achievement Targets of the 6th Period), which includes a green box with text about responding to new phases; '第6期の実施方針' (Implementation Policies of the 6th Period), which details various measures and programs; and a section for '各期事業計画と各年度の業務実施計画' (Business Plan for Each Period and Annual Implementation Plan), which lists documents from the 6th period to the 5th period. The 'EPO中部とは' section is highlighted with an orange border.

EPO中部及び中部地方ESD活動支援センターの第6期3年間（2021年度～2023年度）の達成目標と実施方針をご紹介します。

第6期の達成目標

アフター・コロナ、地域循環共生圏づくり・SDGs活用が進みつつある中部エリアにおいて
新フェーズに対応し、地域が必要とする協働・ESD・SDGsの実装・実践の
ための支援と、誰も取り残されないターゲット設定、EPO機能強化の関係構
築に取り組みます。

第6期の実施方針

(1) 地域循環共生圏づくりやSDGs推進の支援にあたり、細やかな個別対応と、他の取組支援等への汎用化を行います。

①【個別対応】地域／取組が必要とする支援を細やかに汲み上げると共に、これまでの協働取組への支援の経験やツールを活用するなどして、事例ごとに個別に対応した支援を展開します。

②【汎用化】EPO中部が展開してきた支援内容の整理を行い、地域循環共生圏づくりやSDGs推進のためのプログラム化とその実装・実践に取り組みます。

(2) SDGs推進・活用の取組において今後重要となる「目標設定」と「評価」について、第5期の作成ツール（活動見える化プログラム、SDGsチェックリスト等）や、外部団体によるSDGs指標ツール等を活用するなどして、独自の地域SDGs評価（SDGsの取組の現状等を評価する）機能の構築に取り組みます。

(3) 上の(1)(2)の支援や多様なステークホルダーの巻き込みにおいて、第5期の運営会議等での指摘事項や抽出された課題等に留意し、次のEPO機能の強化に取り組みます。

イ)資金調達に関する主体（特に金融機関や経済団体等）との関係構築
ロ)地域実践者であるEPO中部・協働コーディネーターとの関係強化と新たなネットワークづくり
ハ)取り組まれがちと指摘される中小の事業者・自治体等をターゲット設定した支援のあり方検討

各期事業計画と各年度の業務実施計画

令和3年度（2021年度）業務実施計画	PDFファイルで閲覧
第6期事業計画	PDFファイルで閲覧
2020年度 業務実施計画等	PDFファイルで閲覧
2019年度 業務実施計画等	PDFファイルで閲覧
第5期事業計画と2018年度業務実施計画	PDFファイルで閲覧

【中部地方 ESD 活動支援センター ウェブサイト】



The screenshot shows the homepage of the Chubu ESD Activity Support Center. The header features a green and yellow navigation bar with links to '全国センターへ' (All Centers) and 'EPO中部へ' (EPO Chubu). The main content area includes the center's logo, a search bar, and a breadcrumb navigation path: 'ホーム > センター概要一覧ページ'. The left sidebar has a green decorative bar and a 'センター概要' section. The right sidebar lists various menu items under '当センターについて'.

中部地方 ESD 活動支援センター
Education for Sustainable Development

センター概要

当センターについて

センター概要

アクセス・開館時間

お知らせ

ESD/EPO運営委員会

事業報告

SDGsチェックリスト

SDGsワークショップ

イベント&ニュース

表彰・アワード

取材レポート

コンテンツ紹介

教材・資料

中部の地域ESD拠点

サイト利用案内

2021.06.23 センター概要
中部地方ESD活動支援センターの2021年度業務実施計画
2021年度の当センター及びEPO中部の業務実施計画を掲載しました。
(※EPO中部ウェブサイトへリンク)

2021.02.17 ESD/EPO運営委員会
2020年度第2回中部地方ESD活動支援センター企画運営会議を開催
当センターの2020年度第2回目の企画運営会議を1月20日に開催しました。

2020.08.04 ESD/EPO運営委員会
2020年度第1回中部地方ESD活動支援センター企画運営会議を開催
当センターの2020年度第1回目の企画運営会議を6月5日に開催しました。

2020.06.30 センター概要
2020年度の中部地方ESD活動支援センターの業務計画について

2 ESD/EPO 運営委員会の設置・開催

(1) 委員の選定

- 第5期まで「EPO 中部運営会議」「中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議」としてそれぞれ開催していた会議を、第6期では「ESD/EPO 運営委員会」として開催した。
- 運営委員の選定にあたっては、専門分野や拠点エリア等のバランスを鑑みながら、中部地方環境事務所と協議のうえ、次の9名を委員に選定した。
- 第1回委員会の会議招聘に際し、各委員に対し、委員承諾の手続等を行った。

No	分野等	地域	氏名	所属先	役職
1	学識者／ESD	東海	伊藤 恭彦	名古屋市立大学	副学長
2	学識者／学校教育	北陸	加藤 隆弘	金沢大学大学院教職実践研究科	准教授
3	学識者／地域整備計画	東海	加藤 義人	岐阜大学工学部	客員教授
4	協働コーディネーター	北陸	堺 勇人	一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)	常務理事／事務局長
5	企業／福祉	東海	杉浦 真理子	株式会社アクト	代表取締役
6	NPO／地域づくり	東海	田辺 友也	認定NPO法人まちづくりスポット	専務理事
7	自治体	東海	濱田 一多朗	尾鷲市政策調整課	課長補佐兼企画調整係長
8	企業／環境学習	北陸	水上 聰子	アルマス・バイオコスモス研究所	代表
9	学識者／自然生態系	信州	水谷 瑞希	信州大学教育学部 附属志賀自然教育研究施設	助教

(2) 会議の実施

ア 第1回会議

(ア) 開催概要

①日時

- 2021年6月16日（水）13:00～16:00

②開催方法

- オンライン会議

③出席者

- 運営委員：9名全員出席
- 中部地方環境事務所：曾山課長、溝手係長、佐藤主査
- 事務局：福井理事長、清本事務局長、原、富田、小松

④議事次第

1. ご挨拶 環境省中部地方環境事務所
2. 本委員会設置要領の確認
3. 第6期事業計画と令和3（2021）年度業務実施計画について
4. ESD業務について

- | |
|------------------------|
| (1) ESD 業務事務局案（資料4）の説明 |
| (2) 意見交換 |
| 5. EPO 業務について |
| (1) EPO 業務事務局案（資料5）の説明 |
| (2) 意見交換 |
| 6. その他／第2回委員会の日時調整等 |
| 7. 閉会 |

⑤会議資料

- | |
|-----------------------------------|
| 資料1：ESD/EPO 運営委員会設置要領（案） |
| 資料2-1：第6期業務全体の事業計画 |
| 資料2-2：ESD 推進計画 |
| 資料3：令和3（2021）年度業務実施計画 |
| 資料4：ESD 業務事務局説明資料 |
| 資料5：EPO 業務事務局説明資料 |
| 参考資料1：6/26 開催飯山ミーティング・イベント開催案内チラシ |
| 参考資料2：第2期 ESD 国内実施計画（概要資料） |



イ 会議の実施結果の公開

- 運営委員会の設置に伴い、EPO 中部ウェブサイト「ESD/EPO 運営委員会」ページに掲載の委員名簿、規約を更新した。
- 作成した第1回運営委員会の議事概要を各委員に確認した上で、EPO 中部ウェブサイトに公開した。（中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトにも EPO 中部ウェブサイトの該当ページへの直リンク見出しを設定した。）

【EPO 中部ウェブサイト】

Ⅰ ESD/EPO運営委員会

Ⅰ 運営委員会の設置

EPO中部は、多様なステークホルダー及び有識者で構成される運営委員会を年2回開催し、ESD／EPO業務についての検討、協議、評価を行っています。
また、運営委員が提案する協働取組や、各地域で実施すべき協働取組を、EPO中部の機能を使って実施するスキームとなっています。

※第5期までは「EPO中部運営会議」「中部地方ESD活動支援センター企画運営会議」をそれぞれ設置していました。

2021年度（令和3年度）ESD／EPO運営委員（氏名五十音順、敬称略）

- 伊藤 恭彦（名古屋市立大学 副学長）【委員長】
- 加藤 隆弘（金沢大学大学院教職実践研究科 准教授）
- 加藤 義人（岐阜大学工学部 客員教授）
- 堀 勇人（一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 常務理事／事務局長）
- 杉浦 真理子（株式会社アクト 代表取締役）
- 田辺 友也（認定NPO法人まちづくりスポット 専務理事）
- 漢田 一多朗（尾鷲市政策調整課 課長補佐兼企画調整係長）
- 水上 聰子（アルマス・バイオコスモス研究所 代表）
- 水谷 瑞希（信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設 助教）

規約

[2021年度（令和3年度）ESD/EPO運営委員会設置要領](#)

[第5期（2020年度／令和2年度）以前の規約](#)

議事録

[【2021（令和3）年度】](#)

[2021年度（令和3年度）第1回ESD/EPO運営委員会議事録](#)

[第5期（2020年度／令和2年度）以前に実施した会議の議事録](#)

ウ 第2回会議

(ア) 開催概要

①日時

- 2022年2月28日（月）13:30～16:30

②開催方法

- オンライン会議

③出席者

- 運営委員：8名出席（1名都合により欠席）
- 中部地方環境事務所：曾山課長、溝手係長、佐藤主査
- 事務局：福井理事長、清本事務局長、原、富田、小松

④議事次第

1. ご挨拶 環境省中部地方環境事務所
2. 今年度実施したEPO業務と次年度展開について
 - (1) 事務局によるEPO業務の報告（資料2）
 - (2) 意見交換
3. 今年度実施したESD業務と次年度展開について
 - (1) 事務局によるESD業務の報告（資料3）
 - (2) 意見交換
4. 閉会

⑤会議資料

資料1：令和3年度仕様書上業務の実施状況表

資料2：今年度のEPO業務の実施報告資料

資料3：今年度のESD業務の実施報告資料

参考資料：EPO中部/中部ESDCの紹介パンフレット（三つ折りリーフレット）



エ 会議の実施結果の公開

- 作成した第2回運営委員会の議事概要を各委員に確認した上で、EPO中部ウェブサイトに公開した。（中部地方ESD活動支援センターウェブサイトにもEPO中部ウェブサイトの該当ページへの直リンク用見出し記事を掲載した。）

【EPO中部ウェブサイト】

議事録

【2021（令和3）年度】

[2021年度（令和3年度）第2回ESD/EPO運営委員会議事録](#)

[2021年度（令和3年度）第1回ESD/EPO運営委員会議事録](#)

第5期（2020年度／令和2年度）以前に実施した会議の議事録

【中部地方ESD活動支援センターウェブサイト】

センター概要・ESD/EPO運営委員会

2022.03.14 ESD/EPO運営委員会

2021年度第2回ESD/EPO運営委員会を開催

2021年度第2回目のESD/EPO運営委員会を2月28日に開催し、その議事概要を公開しています。



2021.07.27 ESD/EPO運営委員会

2021年度第1回ESD/EPO運営委員会を開催

今年度から当センターの企画運営会議の名称が「ESD/EPO運営委員会」となり、EPO合同の会議となりました。

その第1回運営委員会を6月16日に開催しました。



(3) 運営委員との業務における連携（主催イベントへの登壇等）

- 今年度開催した主催イベントでは、下記の通り、運営委員に登壇等していただき、連携・協力を得た。

【中部地方 ESD 活動支援センター主催イベント一覧】※EPO 中部主催イベントでの該当なし

青字：運営委員の連携・協力を得て実施した事項

区分	開催日	エリア	設営	参加/接続	内容案
自然資産を活かした地域・人づくり ESDダイアログ	11月13日～14日	立山黒部 ジオパーク(富山県 富山市等)	ハイブ リッド	37人 8件 エクスカーション13人	<ul style="list-style-type: none"> ● 中部のジオパークをテーマに「自然資源を活用したESD」ダイアログを立山黒部ジオパーク協会の協力を得て開催。 ● ジオパーク4エリアの団体、水谷委員が登壇。 ● 2日目は立山黒部ジオパーク内の「教育」関連プログラム4箇所を見学。
ESD/SDGs 推進 ネットワーク地域 フォーラム	2月19日	中部	オンライン	115件	<ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度に続く、SDGs学生サミットとして開催。 ● 8大学の学生が取組発表。 ● 伊藤委員が登壇、堺委員、水上委員がファシリテーター登壇。
ESD/SDGs 推進のため の交流機会 提供	SDGs社会教育 学びあいの場 ① 8月26日	中部	オンライン	65件	<ul style="list-style-type: none"> ● 「SDGs社会の「担い手」とは」をテーマに開催。 ● 佐藤真久氏(東京都市大学大学院環境情報学研究科 教授)、水上委員が登壇。セッションに古澤氏(中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授)、堺委員も登壇。
	SDGs社会教育 学びあいの場 ② 9月16日	中部	オンライン	38件	<ul style="list-style-type: none"> ● 「「担い手」育成のためのESDとは」をテーマに開催。 ● 古澤氏、堺委員が登壇。セッションに水上委員も登壇。
	実践セミナー 10月30日	六渡寺 海岸 (富山県 射水市)	午前:現地 午後:オンライン	24人 23件	<ul style="list-style-type: none"> ● 「海岸プラごみ清掃から流域のローカルSDGsの担い手づくりへ」をテーマに、午前:六渡寺海岸視察&ごみ拾い体験、午後セミナー&ワークショップを開催。 ● 学びあい①②登壇者(堺委員、水上委員)、六渡寺自治会などが登壇。
	SDGs社会教育研究ワーキング ①7月6日 ②9月30日 ③12月16日	—	①オンライン ②福井市 ③EPO中部	8人	<ul style="list-style-type: none"> ● 専門家ワーキングとして実施。メンバー:古澤氏、水上委員、堺委員、原。 ● SDGs社会教育・実践セミナーでの実施事項、中部版ESDワークブックについて検討。

※人:参加人数、件:接続数での把握

3 基本業務

(1) 情報の収集・蓄積・発信に関する業務

ア ホームページの更新及び維持管理

(ア) 更新・維持管理状況

- EPO 中部及び中部地方 ESD 活動支援センターの各ウェブサイトについて、下表の通り、記事の投稿・掲載・更新を行った。

【EPO 中部 (<http://www.epo-chubu.jp>) 更新実施表】

月	更新回数・計	更新コンテンツ						
		EPO 中部のお知らせ	皆さんのお知らせ	スタッフのあれこれ	EPO 中部とは	EPO 中部がお手伝い	お役立ちツール	その他(メールが掲載等)
4月	57	2	53	1	0	0	0	1
5月	35	2	31	1	0	0	0	1
6月	47	3	41	1	1	0	0	1
7月	36	3	31	1	0	0	0	1
8月	22	0	20	1	0	0	0	1
9月	20	3	15	1	0	0	0	1
10月	25	6	17	1	0	0	0	1
11月	39	4	33	1	0	0	0	1
12月	31	5	23	1	0	0	1	1
1月	29	1	26	1	0	0	0	1
2月	28	4	22	1	0	0	0	1
3月								
計								

【中部地方 ESD 活動支援センター (<http://chubu.esdcenter.jp>) 更新実施表】

月	更新回数・計	更新コンテンツ						
		センター概要	事業報告	イベント&ニュース	取材レポート	コンテンツ紹介	中部の地域 ESD 拠点	その他
4月	18	0	0	15	1	0	2	0
5月	26	0	1	20	0	1	4	0
6月	23	1	0	21	1	0	0	0
7月	22	1	0	16	0	1	4	0
8月	12	0	0	9	0	0	3	0
9月	11	0	0	11	0	0	0	0
10月	9	0	2	4	1	0	2	0
11月	27	1	3	15	2	1	5	0
12月	13	0	0	10	0	1	2	0
1月	18	0	0	12	0	1	5	0
2月	8	0	0	6	0	1	1	0
3月								
計								

※ いずれも「3月」の数値は3月22日時点での集計を行った。

(イ) ウェブサイトのアクセス数

【下表の各項目について】

- 訪問者数：サイトに1回以上アクセスを行ったユーザー／閲覧した人の数（一人が2回アクセスした場合は一人として集計）
- 訪問件数：訪問者がサイトにアクセスをした回数（一人が2回アクセスした場合は2件として集計）
- ページビュー数：閲覧されたサイト内のページの総数
- ページビュー数の平均：ここでは訪問者1人あたりが閲覧したページビュー数を算定

【EPO中部ウェブサイト】

※ 2020年度に実施したEPO中部ウェブサイトのリニューアルの際に、アクセス数の照会元をGoogleアナリティクスに移行した。（従来の照会元であるサーバー会社によるアクセスレポートが特殊なシステムでページビュー数を集計していたため、一般的なページビュー数を把握できるGoogleアナリティクス参照に変更した。）

照会元	※Google アナリティクス				※サーバー会社のアクセスレポート				
	2021年度				ページビュー数：過去の推移				
	訪問者数 (ユニーク数) (単位:人)	訪問件数 (単位:件)	ページ ビュー数	平均 (ページ/人)	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
4月	446	717	3,310	7.42	24,015	66,930	59,319	19,311	32,869
5月	588	858	2,965	5.04	16,148	56,664	30,280	18,382	37,951
6月	625	888	3,574	5.72	21,314	61,297	29,150	20,060	27,827
7月	594	877	2,579	4.34	29,566	594	877	2,579	4.34
8月	639	919	2,203	3.45	25,428	639	919	2,203	3.45
9月	418	681	1,923	4.60	24,902	418	681	1,923	4.60
10月	775	1,331	4,015	5.18	34,750	42,768	75,127	16,176	24,051
11月	526	860	2,791	5.31	48,487	38,630	102,551	16,289	18,034
12月	521	810	2,271	4.36	45,615	35,352	182,209	31,808	23,287
1月	461	704	2,132	4.62	65,535	23,878	107,374	39,694	31,568
2月	599	951	2,800	4.67	65,552	14,677	61,384	21,378	35,860
3月						21,593	67,883	44,972	23,308
計	6,192	9,596	30,563	4.97	401,312	501,670	860,157	279,316	335,028

【中部地方ESD活動支援センターウェブサイト】

照会元	※Google アナリティクス							
	2021年度				ページビュー数：過去の推移			
	訪問者数 (ユニーク数) (単位:人)	訪問件数 (単位:件)	ページ ビュー数	平均 (ページ/人)	2020年度	2019年度	2018年度	
4月	254	393	1,115	4.39	1,165	618	595	未開設
5月	325	476	1,368	4.21	648	828	857	未開設
6月	361	510	1,324	3.67	1,620	955	1,301	未開設
7月	358	501	1,272	3.55	1,164	832	795	684
8月	313	393	811	2.59	827	1,111	1,144	298
9月	306	399	872	2.85	797	1,232	818	295
10月	552	712	1,463	2.65	1,179	1,192	904	366
11月	406	541	1,240	3.05	950	1,064	1,085	325
12月	393	574	1,302	3.31	1,420	1,139	879	287
1月	343	485	1,052	3.07	1,183	841	841	362
2月	327	455	1,025	3.13	1,080	1,181	641	1,343
3月					1,099	1,258	752	897
計	3,268	4,499	10,767	3.36	13,132	12,251	10,612	4,857

※ いずれも「2021年度3月」の数値は3月22日時点で集計を行った。

イ メールマガジンの作成及び発行

- 毎月第2火曜日に、メールマガジンを次の通り、発行した。
- 発行済みメールマガジンのバックナンバーは、EPO中部ウェブサイトに掲載しており、閲覧が可能である。<https://www.epo-chubu.jp/mail-magazine>

月	号	発行日	発行部数	記事数・計	掲載記事数				
					冒頭部	イベント 関連	ツール・コン テンツ	助成金・ 表彰等	その他
4月	142号	4/13	747部	28	0	10	5	11	2
5月	143号	5/11	740部	25	0	6	5	14	0
6月	144号	6/8	739部	26	3	11	0	10	2
7月	145号	7/13	737部	30	2	12	1	15	0
8月	146号	8/10	739部	25	1	12	2	10	0
9月	147号	9/14	740部	27	1	9	2	15	0
10月	148号	10/12	740部	23	4	10	0	9	0
11月	149号	11/9	740部	26	2	16	0	8	0
12月	150号	12/14	742部	25	2	12	1	10	0
1月	151号	1/11	740部	19	2	11	1	3	2
2月	152号	2/8	740部	27	3	15	2	7	0
3月	153号	3/8	740部	14	0	6	3	5	0
計				295	20	130	22	117	6

※ 「冒頭部」の記事は、中部地方環境事務所及びEPO中部の主催イベント等お知らせ記事となっている。

ウ リーフレットの作成及び配布

- 2021年6月末時点でEPO中部／中部地方ESD活動支援センターのリーフレットが残部510部あり（第1四半期時点での残部540部）、今期3カ月の間に約30部を配布した。
- 第6期版の新規リーフレット原稿（A4三つ折りリーフレット）を11月に作成・発行し、300部を印刷してイベント等で配布した。

【完成した新リーフレット原稿】



EPO:環境パートナーシップオフィスとは
協働取組を構築・促進する中核的な担い手として、環境教育等促進法に基づき、環境省が全国に設置した施設・組織です。

EPO中部は
中部7県(富山県・石川県・福井県・長野県・愛知県・岐阜県・三重県)において、地域の皆さんを取り組む協働による地域循環共生圏づくりやローカルSDGs実践を支援しています。

中部地方ESD活動支援センターは
中部エリアにおけるESD活動の推進・支援を担っており、「地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)」の登録団体の皆さんと連携してESDの支援・推進に取り組んでいます。

ESDとは
Education for Sustainable Development (持続可能な開発のための教育)
SDGs達成や人づくり・地域づくり・ネットワークづくりのための教育です。

SDGs達成に向けて
EPO中部と中部地方ESD活動支援センターは、2030年のSDGs達成を目指し、中部エリアの地域活動者の皆さんや自治体などの支援に取り組んでまいります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

アクセス
名古屋市営地下鉄・桜通線「丸の内」駅の5番出口から徒歩3分



住所:〒460-0003 名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル4F
開館日:月曜日～金曜日 9:30～17:30
閉館日:土・日曜、祝日、お盆・年末年始の休業あり
※イベント等でスタッフが出払う場合がございます。ご来館の際にはあらかじめ、Webサイト等で開館日をご確認願います。

EPO中部 Environmental Partnership Office Chubu
環境省
中部環境パートナーシップオフィス
TEL: 052-218-8605 FAX: 052-218-8606
Email: info@epo-chubu.jp
Web: http://www.epo-chubu.jp



中部地方ESD活動支援センター
Education for Sustainable Development
TEL: 052-218-9073 FAX: 052-218-8606
Email: office@chubuesdcenter.jp
Web: http://chubuesdcenter.jp



Facebookページ: @EPOchubu
メールマガ: 「そらいろ通信」～EPO-Chubuメールマガジン～
…毎月第2火曜日配信

2021.11発行

EPO ESD

環境省 中部環境
パートナーシップオフィス
(EPO中部)

中部地方ESD
活動支援センター



環境省 中部地方環境事務所

EPO中部／中部地方ESD 活動支援センターの 第6期(2021年度～2023年度)の目標

アフター・コロナ、地域循環共生圏づくり・SDGs活用が
進みつつある中部エリアにおいて—
新フェーズに対応し、地域が必要とする協働・ESD・SDGsの
実装・実践のための支援と、誰も取り残されないターゲット
設定、EPO機能強化の関係構築に取り組みます。

- 方針1** 地域循環共生圏づくりやSDGs推進の支援にあたり、細やかな個別対応と、他の取組支援等への汎用化を行います。
- 【個別対応】必要な支援を細やかに汲み上げ、EPO中部独自ツールを活用して、個別の事例に対応した支援を展開します。
 - 【汎用化】これまでの支援内容を整理し、地域循環共生圏とSDGs推進のためのプログラム化とその実装・実践に取り組みます。

- 方針2** SDGs推進・活用で今後重要な「目標設定」と「評価」について、EPO中部独自ツールや外部団体のSDGs指標ツールを活用するなどして、地域SDGs評価機能の構築に取り組みます。

- 方針3** 方針1・2の支援や多様なステークホルダーの巻き込みにおいて、次の3つのEPO機能強化に取り組みます。

- ①資金調達に関わる主体(特に金融機関や経済団体等)との関係構築
- ②地域実践者であるEPO中部・協働コーディネーターとの関係強化と新たなネットワークづくり
- ③取り残されがちと指摘される中小の事業者・自治体等をターゲット設定した支援のあり方検討

EPO中部独自ツール

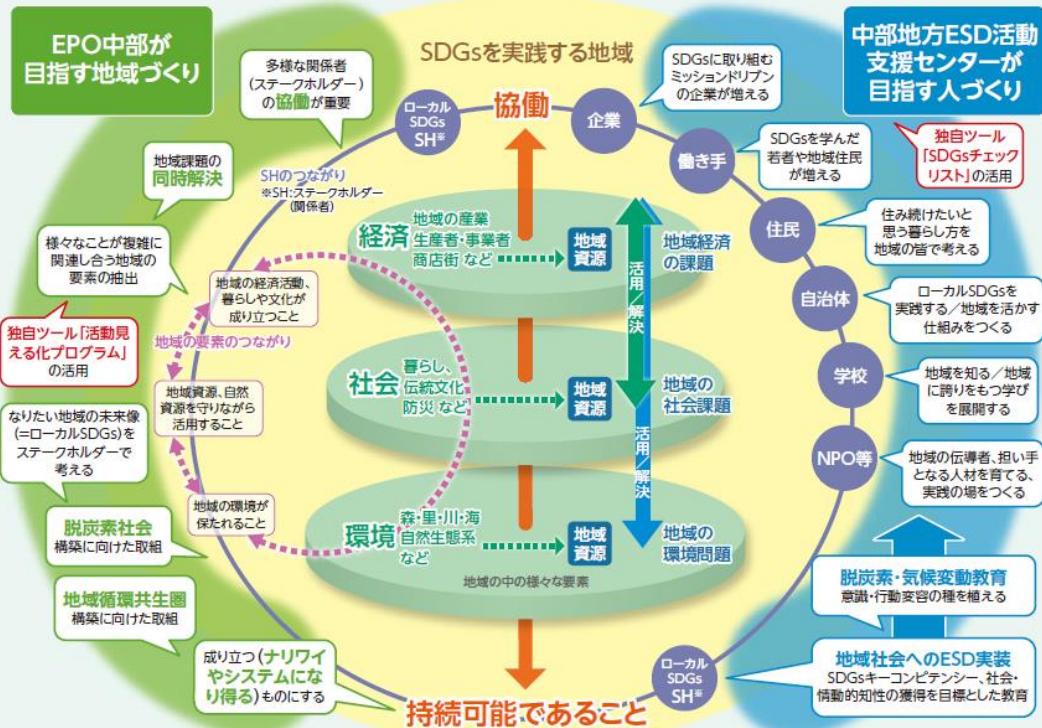
SDGsチェックリスト



第6期にも新たな独自ツールを構築・公開します。

活動見える化プログラム

持続可能な地域づくりにEPO中部／中部地方ESD活動支援センターをご活用ください。



こんな時はEPOへ

SDGs、地域循環共生圏、協働、ESD、環境教育、人づくり、人材育成などの相談・照会、情報収集、広報協力を行っています。お気軽にご連絡、ご来館ください。

◆相談したい、紹介してほしい

環境、ESD(教育)、SDGs(ローカルSDGs)、地域循環共生圏づくりなどに関わる相談・照会を受け付けています。

◆情報が知りたい、収集したい

施設内の配架コーナーに多種多様な資料があります。自由にお持ち帰りください。

◆ミーティング・スペースが利用できます

施設内のフリースペースをミーティングや資料閲覧にご利用いただけます。(※ご利用の重複を避けるため、事前に連絡願います。)

◆広報したい、PRしてほしい

ウェブサイトやメールマガなど、イベントや募集告知、助成金情報などの情報発信を行っています。皆さんが広報したい情報やチラシなども随时、受け付けています。

(2) 相談対応及び対話の体制の構築に関する業務

ア 照会・相談対応

- 相談者との面談や資料・情報収集、マッチング作業、照会先との連絡・調整などを要した照会・相談は、下記の通りである。
- 件数、内容等については、中部地方環境事務所の所定のフォーマットで毎月報告資料を提出した。
- 11月の第2週（8日～12日）に、なごや環境大学主催の「NISHIKI2 SDGs WEEKs」に企画参加し、EPO施設内でSDGs資料の特設コーナー設置やSDGsミニ・ワークショップ開催を行ったところ、関連して計18件（人）の来館があった。

※ いずれも「3月」は3月22日時点での集計を行った。

【照会・相談・打合せ対応件数】 ※①②③の詳細を次頁以降に整理。

区分	ア 照会・相談対応							イ 対話の体制の構築		
	事例件数※ ₁	①相談に対し支援対応を行った案件の件数	延べ件数	照会・相談対応等の件数※ ₂	来館件数	②相談・照会・資料配架依頼等の件数※ ₂	会議利用	集、資料収集等の件数※ ₂	③メールによる相談（広報依頼等）の件数※ ₂	（ア）会議・セミナー等の地域活動への招聘
4月	10	17	6	4	1	1	1	11	2	3
5月	4	15	5	2	1	2	2	10	1	8
6月	4	19	6	1	3	2	2	13	3	10
7月	2	14	7	2	2	3	3	7	5	14
8月	4	19	5	1	3	1	1	14	3	3
9月	6	17	3	0	1	2	2	14	4	3
10月	5	16	8	3	2	3	3	8	4	8
11月	2	37	25	0	2	23	23	12	7	7
12月	3	19	8	1	3	4	4	11	5	9
1月	7	33	10	0	5	5	5	23	5	6
2月	5	22	6	3	3	0	0	16	2	10
3月									1	3
計									42	84

※1)事例件数:最初の連絡から対応終了までの(その間の連絡・打合せ等を含めた)案件ごとにカウントした数となっている。

※2)延べ件数:同じ案件・用件での来館、メール・電話等であっても、個別に回数をカウントした数となっている。

①相談に対し（広報協力以外の）支援対応等を行った案件

- 相談に対し、EPO/ESDセンターが何らかの支援対応等を行った案件数は下記の通りである。

【相談件数の合計、相談方法別件数】

	相談件数・計	相談方法			
		電話	メール	来所	その他
4月	10	5	1	3	1
5月	4	1	1	1	1
6月	4	0	2	1	1
7月	2	0	1	0	1

	相談件数・ 計	相談方法			
		電話	メール	来所	その他
8月	4	2	0	1	1
9月	6	2	0	0	4
10月	5	3	1	1	0
11月	2	0	2	0	0
12月	3	0	1	1	1
1月	7	5	2	0	0
2月	5	2	2	1	0
3月					
計					

【相談主体別の相談件数】

	相談主体の分類											
	学校・教 育機関	大学関係	自治体	その他行 政機関	企業	業界団体 等	NPO・ NGO	協同組合	メディア	その他事 業主体	独立行政 法人等	その他
4月	1	1	2	0	1	1	1	1	0	2	0	0
5月	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
7月	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0
9月	2	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0
10月	0	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0
1月	1	1	0	1	1	0	2	0	0	1	0	0
2月	1	0	2	0	0	0	1	0	0	1	0	0
3月												
計												

【相談に対し EPO が行った支援内容の件数】

	EPO による支援内容分類									
	SDGs の概 説・事例紹介 等	講師等人材 紹介	教材・ツール の紹介・提供 等	環境省事業・ EPO 業務の 問合せ回答	その他情報 の提供	ESD・授業等 教育関係の 個別対応	イベント・会 合ほか事業 の企画運営	後援等名義 使用	その他	
4月	1	5	0	0	1	0	3	0	0	0
5月	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0
6月	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
8月	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0
9月	0	4	0	0	1	1	0	0	0	0
10月	0	1	1	0	2	0	0	0	1	
11月	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
12月	1	1	0	0	0	0	0	0	1	
1月	1	1	1	0	0	1	2	0	1	
2月	0	4	0	1	0	0	0	0	0	
3月										
計										

【具体的な相談内容と EPO による対応内容】

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
1	4月1日	学校・教育機関	・名古屋市事業「SDGs達成の担い手づくり推進事業」の募集があり、学校活動の企画内容について相談したい。	・4/1に面談しアイデア出しと助言を実施。 ・4/2に企画書案をメールにて受取、提案を当方より返信。専門家を紹介。 ・4/6先方より提案を入れた申請内容について情報共有返信あり。	
2	4月2日	企業	・SDGs の登録等はどうにしたら行なうことができるのか知りたい。	・4/2 電話で相談があり、SDGs のロゴを用いた事業活動を検討しており、ロゴ使用のために登録が必要であれば登録したい、またその申請先を知りたいとのことであった。登録制度等は自治体が取り組みはじめていること、国等の表彰制度があることなどを紹介した。民間の団体による登録も行われているが、公共性・公認性の有無等は定かではないことをお伝えした。また、国連の SDGs ロゴ公開サイトについて紹介し、営利目的でなければロゴは自由に使用できること、但し、使用規定は必ず確認いただくようお伝えした。 ・会社の取組の方向性がもう少し具体的になった際には、EPO(ESD センター)に相談したいとのことであった。	
3	4月4日	大学関係	・中津川加子母での植林活動による学生の学修について企画内容を相談したい。	・4/4所内で打合せし、9月の活動企画内容について助言、講師を紹介。関連資料を講師に送付要請。 ・4/6 打合せに基づき企画メモを作成し先方へ送付。	
4	4月6日	NPO・NGO	・6月と7月に計画している教員向け干渴体験プログラムでSDGs の話題提供したいので相談したい。	・4/6 電話にて話題提供者派遣も視野に協力できることを回答。 ・4/7 所内で打合せ。6/5と7/27に職員を派遣。	・コロナの影響で6/5は中止
5	4月7日	その他事業主体	・名古屋市内の学童保育向けの教育派遣プログラムを紹介してほしい	・愛知県温暖化防止センターの子供向け〇×クイズを行うプログラムを紹介できる。 ・スケジュール調整が必要で、今年度の計画によっては費用がかからない可能性がある。 ・愛知県センターに連絡し情報共有するので今後動きがあればセンターから連絡が行くようにする。	
6	4月9日	自治体	・愛知県ユネスコスクール支援会議に職員を派遣してほしい。	・4/9ESD 責任者の派遣を承諾。第1回 6/8 午後を予定。	
7	4月9日	自治体	・ユネスコスクールなど学校現場に派遣できるような出前授業プログラムを持っている企業団体を教えてほしい。	・4/9 企業であればエネルギー事業者や水処理事業者が出前教室プログラムがあると紹介。 ・その他、愛知県地球温暖化防止活動推進センター、愛知県環境活動推進課所管の環境学習コーディネート事業などの実績に関係団体の記録のあることを情報提供	
8	4月19日	その他事業主体	・北海道 ESDC の気候変動教育企画コアメンバーに参加してほしい。	・4/19 参加を了承。論点と全体目的の考え方について補足提案をメール送付。	・コアメンバーとして以後の北海道 ESDC 勉強会に参加
9	4月21日	協同組合	・勉強会イベントで共生圏への支援事例を話してほしい。	・4/21 に本省職員を通して、岡谷市(またはオンライン)で開催の勉強会において、中部地方環境事務所の概説後に、EPO による取組支援の事例紹介をしてほしいとの依頼電話があった。 ・4/22 主催者から詳細、及び依頼状をメールで送付いただき、開催日決定についても連絡いただき、7/28(水)開催となった。 ・7/5 に事前打合せを実施し、ワーキング等も EPO ファシリで実施することになった。タイムスケジュ	・7/30 御礼メールをいただき、WS により今後の展望のヒントが得られたとのご連絡をいただいた。

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
				ル、オンラインホワイトボードなどをEPOで準備する。 ・7/28ぐるっと長野地域協議会学習会に、中部地方環境事務所担当官、EPOスタッフが登壇。	
10	4月21日	業界団体等	・再エネ導入地域づくりの議論の整理をする人材を紹介してほしい	・4/21に来所、福井県で取り組んでくる再エネ地域づくり関係の補助金が取れた場合、議論整理のファシリテーターを派遣してもらえないかとの依頼。申請が通り話が具体的になつたら再度連絡してもらうこととする。	・その後連絡なし
11	5月13日	大学関係	・あいち環境塾修了生のステップアップ講座のSDGs地域循環共生圏のセッションを一つ担当してほしい。	・5/13に6/19午後2時間担当枠を了承。後日事務局から連絡があること。 ・5/18事務局よりメールにて依頼あり。了承返信。	
12	5月14日	自治体	・SDGsイベントの後援名義使用依頼。	・5/14毎年開催、及び毎年後援しているSDGsイベントについて、今年度も後援依頼があり、企画書等を送付いただいた。 ・後日、後援申請の連絡、完成チラシの送付などがあり、EPO・ESDCのウェブサイトで広報協力を行つた。	・6/9 キックオフイベントが開催され、EPOも参加した。
13	5月19日	自治体	・岐阜県の環境学習ポータルサイトの開設に関わる事業者選定プロポーザルの審査員をEPOに依頼したい。	・5/19に電話で依頼があり、プロポーザル審査員の引き受けが可能であると回答した。現時点では計画段階となっているため、具体的なことを決定した段階で、EPOへ改めて連絡いただくことになった。 ・電話と郵便で正式依頼あり。職員が委員として対応を受諾。 ・8/2に担当者が来所、内容説明を受ける。 ・8/6審査会開催。	
14	5月26日	その他行政機関	・気候変動適応関連事業のセミ調査にユース世代の参加を促したい。	・5/26に来館いただき、セミ調査事業の詳細を伺つたうえで、各県の温暖化防止活動センターなど関連組織の連携協力を得ること、SNSの活用などを提案した。	
15	6月3日	大学関係	・SDGsチェックリストについて教えてほしい	・第5期の中部地方ESD活動支援センター成果として、パッケージであることを説明。 ・これまでのワークショップ活動について紹介。取りまとめた研究成果について紹介。 ・その他のツールとしてガイドシートについても紹介。	
16	6月3日	その他事業主体	・SDGsチェックリストのワークシートを使わせてほしい	・公開しているのでお使いくださいと回答。URLを添付。	
17	6月15日	メディア	・中学校を中心としてESD展開の現状について問い合わせ(他の地方センターも)	・背景を含めESDの現状を解説、メール返信。	
18	6月24日	学校・教育機関	・SDGsに関わる授業を行ってほしい	・対応を了承、7月28日に訪問打合せ。 ・開催内容と開催日調整、1月20日午前で2クラス2時限で実施。	
19	7月1日	自治体	・SDGsまちづくりプロジェクトの説明と連携相談をしたい	・7/14来訪、意見交換を実施。錦二丁目SDGsWeek(11/6~19)への参加の打診があり通常業務の中で協力することを回答。 ・8/27にメールにて参加企画の申込書が届き、内部で企画内容について検討。 ・9/15に中部地方環境事務所に企画内容、コロナ対策等を確認のうえ、2つの企画参加を申し込んだ。	
20	7月16日	自治体	・岡崎商工会議所で会員向けのSDGs講座は可能か	・対応を了承。 ・7/29訪問打合せ、3部会でそれぞれニーズに応じたWSを含むプログラムを実施する。	

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
				<ul style="list-style-type: none"> ・8/4 建設部会 9月13日 PM 確定 ・8/5 工業部会 10月20日 PM 確定 ・コロナ対応もあり日程変更、工業部会と建設部会合同で、10/20 座学、11/1 WS で実施 	
21	8月2日	自治体	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県で地域循環共生圏を取り組む補助等を考えているが、国の施策はどのようなものか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域循環共生圏 PF 事業について説明。中部地方環境事務所の環境保全課が窓口になっているので相談することを推奨。必要があれば取り次ぐことも、直接の問い合わせも相談に乗ってくれると情報提供。岐阜県側で今後検討対応。 	
22	8月16日	学校・教育機関	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに関わる授業を行ってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・対応を了承、10月20日に実施。 	
23	8月24日	企業	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーン調達についてアドバイスいただける人・組織を紹介してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・8/24 電話で相談があり、メールで趣旨と連絡先を送付いただく。同日に中部地方環境事務所に対応方法を照会。大臣官房環境経済課が対応するとの紹介があり、相談者へもその旨をメールで返信した。 	
24	8月26日	その他事業主体	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼロカーボンナビゲーター養成講座の実施に当たって4回目にナッジの活用について講師をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ナッジに詳しい職員が対応する旨返答。1月にオンラインで実施予定。 	
25	9月8日	企業	<ul style="list-style-type: none"> ・セロカーボンに向けて企業のCO2 算定を支援するにはどうしたらよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・CO2 算定は省エネ法で経産省が示している計算フォーマットが最もフォーマルと回答。 ・支援するには経産省の省エネ支援メニューの活用を助言。実際にプラットフォーム事業に携わる(一社)環境創造研究センターの担当者を紹介。 	
26	9月9日	企業	<ul style="list-style-type: none"> ・新城で行う親子向け環境保全講話の講師をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10/23と11/7の対応を了承 	・コロナ対応でツアー中止
27	9月10日	NPO・NGO	<ul style="list-style-type: none"> ・小牧市で行う省エネセミナーに話題提供をしてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・11/17の対応を了承、講師を派遣 	
28	9月13日	NPO・NGO	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県地球温暖化防止活動推進員セミナーのファシリテーターサポートをお願いできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9/14のセミナーに推進員に登録している職員派遣を了承 	
29	9月15日	学校・教育機関	<ul style="list-style-type: none"> ・工業高校のキャリア授業で事業所訪問ができないためオンラインでSDGs 授業をお願いできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対応を了承。9/21 午後と9/22 午前の2回でオンライン講座及び個人ワーク実施を実施予定。 ・高校生以外に教員、教育委員会スタッフも視聴。 ・内部のみ録画を見せること了承。 ・新聞取材の可能性あり。取材結果フィードバックを依頼。 	・実施時の動画記録について受領
30	9月22日	学校・教育機関	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン講座終了後、大学との SDGs に関する交流マッチングは可能かとの相談。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中部大学に事務局のあるRCE 中部を通じて相談してみる旨返答。 ・中部大学、担当教官に相談、結果、アウトリーチイベントとサステナ政策塾をメールで紹介した。 	・先方よりサステナ政策塾参加希望あり、事務局から連絡するよう大学側に依頼。

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
31	10月5日	自治体	・日進市で取組を考えているエコ通勤についてソフトやシステムの補助金等はないか	・10/11に日進市役所で面談、10/12 環境省中部地方環境事務所と情報共有。 ・普及啓発の補助金が有効かとアドバイス。経験豊富な専門家を紹介。	
32	10月13日	自治体	・北名古屋市のごみ処理について意見交換アドバイスお願いしたい。	・法改正対応やごみ袋有料化について意見交換。日進市の事例を紹介。	
33	10月13日	企業	・生物多様性の親子講座を社に隣接する雑木林で実施する予定であるが、効果的なやり方を相談したい。	・10/18に来所、面談。 ・子ども相手の実例を紹介 ・森と子ども関係の資料、ガイドシートを提供、企画について助言。 ・11/27実践予定。終了後報告をいただく予定。	
34	10月25日	自治体	市町村の環境学習担当者についての研修会に講師を派遣してほしい。	・10/26EPO 来所打合せ・1/21 実施決定・学びを行動につなぐサポートブックを用いて講座と交流 WS	
35	10月26日	大学関係	・昨年度実施したダイアログの内容を元に ESD 学会に投稿したいがよろしいか。公式資料を送ってほしい。	・投稿歓迎の旨回答 ・実施要領と報告書の一部を送付	
36	11月4日	業界団体等	・12月4日開催北陸ユネスコスクール交流会ウェブ開催にあたり環境省 EPO 中部 ESDC としてご挨拶願えないか	・対応を了承、担当責任者が挨拶予定 ・当日挨拶を実施。交流会に参加。	12/13 お礼と報告の文書メール配信あり。
37	11月30日	大学関係	・前回の意見交換後、中小企業の SDGs 取組普及方法の検討を続けている。もう一度訪問し意見交換したい。	・対応を了承、12/14、21で日程を調整 ・12/14 来所 ・企業の SDGs 取組について、調査事例、学生による協働事例について情報提供あり ・当方から岡崎商工会議所ワークショップ事例など提供 ・2/19 学生サミットへの参加を検討いただく	・2/19 学生サミット参加決定
38	12月1日	NPO・NGO	・愛知県地球温暖化防止活動推進員交流会 WS のファシリテーターサポートをお願いできないか。	・1/28 の交流会に推進員に登録している職員派遣を了承	
39	12月3日	企業	・市民をまきこんだ SDGs イベントや取組などををすすめるパートナーシップの構築をどのように行うか。	・担当者不在のため、改めて日程調整、12/13 オンライン面談で対応。 ・12/13 オンライン面談、三承工業がリーダーシップをとり、岐阜県を中心に企業の SDGs 取組ネットワークを来年から構築する。EPO 中部 ESDC などにかできるか。 ・情報提供、企画の相談、講師派遣など対応可能。 ・学習やセミナーなど人づくりを行うのであれば地域 ESD 拠点登録が公的枠組みとして有効とアドバイス。登録検討いただくとのこと。	
40	12月13日	その他行政機関	・事務所内で地域循環共生圏づくり、PF 郡上についての勉	・12/13 メールで依頼があり、詳細が決まった際に、日程調整等の連絡をいただくことになった。 ・1/31 メールで2/下旬～3/上旬でオンライン1時間の勉強会を調整。	・終了後に御礼メールと感想・質問のメールをい

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
			強会を予定しているため、概説等してほしい。	・2/10 メールで3/1に実施決定の連絡をいただいた。 ・3/1に中部地方環境事務所、EPOで地域循環共生圏について計1時間のレクチャーを行った。	ただき、質問への回答を返信した。
41	1月5日	NPO・NGO	・1/28 開催の脱炭素フォーラムでWSをお願いできないか	・企画とファシリテーション実施を了承	
42	1月11日	その他事業主体	・こども向けSDGs啓発資料について知りたい。	・1/11に電話による照会があり、1/18にメールにより、こども向けSDGs啓発資料等に関するウェブサイトURL(環境省、国連広報センター、ユニセフ、社団法人、民間企業、リンク集的なまとめサイト等)及び、中部地方ESD活動支援センター作成の資料(野外体験ガイドシート、SDGsチェックリスト)をご案内した。	
43	1月17日	学校・教育機関	・9月に実施したオンラインSDGsセミナーワークショップを生徒とNPOメンバーの参加で実施してもらえないか。	・対応を了承。日程を調整。2月18日を提案。NPOと調整の上メールで返信をもらう予定。 ・1/24メール返信 2月18日(金)13:00~14:10で実施。 ・2/9メール調整時間を11:00~12:10に変更	
44	1月24日	NPO・NGO	・公益財団法人全国子ども会連合会が2022/10/29(土)30(日)に長野市で予定している「全国子ども会育成中央会議・研究大会」の開催に係り助言が欲しいので対応してもらえないか	・対応を了解。先方の連絡を待つこととする。・2/23北海道子ども会育成連合会の担当者からメール連絡あり。3/1にオンラインで面談を設定、先方の依頼内容聞き取り。	
45	1月26日	大学関係	・中小企業のSDGs取組普及方法について再度訪問し意見交換したい。	・対応を了承、2/15来訪で調整。 ・1/31別件でオンライン打合せ時に追加の依頼。2/15午後来訪、SDGsや関連分野の研究紹介をしてほしいとのこと。対応を準備する。 ・来訪時にローカルSDGs普及の取組を中心に紹介。意見交換を行った。	
46	1月27日	企業	・取引先にSDGs取組を普及するために連携の可能性を相談したい。	・事例紹介などの意見交換の機会を2月17日13:00~来訪予定で設定。 ・当日担当者4人が来訪。事業者のSDGs取組について普及を図る上での様々な問題について意見交換。ESD拠点登録も紹介。今後とも情報交換をしていくこととする。	
47	1月29日	その他行政機関	・JICA北陸が22年度に実施したいと考えている再生可能エネルギーのオンライン研修事業の受託者選定について助言が欲しい。	・2/2にオンラインで面談することとする。 ・オンライン面談では、研修事業の内容の説明を受けるとともに、仕様や業者選定方法について助言を求められる。 ・助言としては、海外から参加する受講者のニーズをよく考える必要がある、再エネの規模によって必要な知見が全く異なる、等に留意すべきと指摘。	
48	2月2日	NPO・NGO	・団体の10周年に向けて新しい取組をはじめたいため、活動エリアの2級河川の護岸工事、環境保全等について勉強したい。専門家、事例等の紹介をお願いしたい。	・2/2に来館して相談をうける。専門家、事例についてすぐに提供できる情報はないが、もう少し詳しいことが決まった段階で、最後に来館、相談いただけたことになった。	

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
49	2月4日	学校・教育機関	・岐阜県関市立旭ヶ丘小学校校からESDの研修会講師を紹介いただけないか	・専門家を紹介。当該小学校担当に連絡。	
50	2月8日	自治体	・7月上旬に開催する愛知県環境管理推進員を対象とした研修会の講師を紹介いただきたい。テーマは環境マネジメントシステム構築で得られる効果、環境管理推進員が興味を持つてもらえそうなもの、SDGsなどを検討している(テーマは確定しているわけではない)。	・2/8に電話による照会有り。同日、環境マネジメントシステム構築及びSDGs関連における候補者を各1名挙げ、より具体的なテーマが決まればその分野でご紹介できる旨回答した。	
51	2月9日	その他事業主体	・脱炭素に向けたEPOの取組紹介を、協議会会員自治体を対象に実施してほしい。	・2/9にメールで問い合わせがあり、地域循環共生圏づくりの支援や事例であれば紹介できる旨を返信したところ、3月初旬での会合開催を調整することになった。・事務局からメールで3/16開催の連絡あり。中部地方環境事務所と登壇。	
52	2月16日	自治体	・来年度事業のプロポーザルで選考委員をお願いしたい。	・2/21に来訪の上詳細を説明を受けることで調整。 ・当日来訪、2件のプロポーザル案件(SDGsまちづくり、木材循環普及啓発)について選考委員依頼内容について説明を受ける。依頼を受諾。	

②来館による相談・照会、資料配架依頼等

月	件数	相談・問合せ内容
4月	4件	<ul style="list-style-type: none"> 大学から学生の学修についての企画内容相談 NPOから干渉関連事業についての相談 公益財団法人からSDGs事業についての相談 再エネ導入に関する人材紹介の相談
5月	2件	<ul style="list-style-type: none"> 大学から学生の学修についての企画内容相談 環境省事業への参加促進についての相談
6月	1件	<ul style="list-style-type: none"> SDGsチェックリストについて説明・相談
7月	2件	<ul style="list-style-type: none"> ESDに関する相談 自治体と事業企画について打合せ
8月	1件	<ul style="list-style-type: none"> 県による環境学習ポータルサイトの開設に関する事業者選定審査委員についての打合せ
9月	0件	—
10月	3件	<ul style="list-style-type: none"> 自治体とごみ処理に関する意見交換 企業から生物多様性の出前講座に関する相談 自治体から環境学習事業に関する説明会開催に関する相談
11月	0件	—
12月	1件	<ul style="list-style-type: none"> 大学と企業用SDGs資料の企画に関する相談
1月	0件	—
2月	3件	<ul style="list-style-type: none"> NPOから河川環境保全活動の事例・専門家についての紹介相談とSDGsに関する情報交換 金融機関からSDGs取組普及の連携に関する相談 自治体からプロポーザル案件の選考委員依頼に関する相談
3月		
計	00件	

③メール・電話による相談、問合せ、広報依頼等

月	件数	相談・問合せ内容
4月	11件	<ul style="list-style-type: none"> 企業からSDGsの認証・登録制度について問合せの電話 一般の方からレジ袋・マイバッグ等の有料化に対する意見等の電話 一般の方から地球温暖化に関する会合のご案内 稻永ビジターセンターからSDGs勉強会講師についての照会依頼の電話 一般の方から運送会社の騒音について対応を求める電話 市民講座で使用するSDGs資料の提供依頼の電話 自治体からユネスコスクールに関する電話 一般の方から自治体の環境問題について問合せの電話 一般の方から浄化槽に関する法令改正について問合せの電話 生協生活クラブの行事で共生圏(PF事業の支援)について話してほしいとの電話依頼 GW中のEP0の開館日についての問合せの電話
5月	10件	<ul style="list-style-type: none"> PFからの今後の展開の報告・相談 ツールの広報依頼のメール 6/26飯山ミーティングについての問合せ電話 SDGsイベントの後援依頼のメール・電話 自治体からプロポーザル(環境学習関連)の審査員依頼について相談の電話 気候変動イベントに関するユースへの呼びかけについての相談メール SDGsチェックリストの話をうかがいたい(訪問希望)の電話/メール 自治体後援のイベント広報協力について確認の電話 協働コーディネーターから情報交換の依頼メール ESD拠点団体から事業広報の依頼メール
6月	13件	<ul style="list-style-type: none"> NPOから事業広報依頼のメール 公益財団法人からメルマガへの記事掲載依頼のメール 公益財団法人からメルマガ掲載記事修正依頼のメール NPOから助成事業についてメルマガ掲載依頼のメール GEOCから助成金についての広報協力依頼メール NPOから事業開催日程について相談のメール 環境に関する軽犯罪に対する意見の電話 中学校におけるESDの現状について問合せのメール

月	件数	相談・問合せ内容
		<ul style="list-style-type: none"> ・自治体から事業広報協力依頼のメール ・NPO からイベント広報協力依頼のメール ・企業から訪問希望の電話 ・大学教員から環境施策の情報提供依頼等のメール ・NPO から募集情報について広報依頼のメール
7月	7件	<ul style="list-style-type: none"> ・自然学校から講座募集について広報依頼のメール ・NPO からイベント広報協力依頼についてのメール ・一般社団法人から地域循環共生圏 PF 事業について問合せの電話 ・ESD コンソーシアム団体から協議会委員の委嘱依頼 ・公益財団法人から助成事業広報協力についての依頼メール ・運営委員から ESD ダイアログについての問合せ電話 ・大学教授（元環境省職員）から 7/13 開催・地域循環共生圏勉強会について問合せの電話
8月	14件	<ul style="list-style-type: none"> ・企業による助成金プログラムの広報協力メール ・ESD 拠点からワークショップ案内のメール ・勉強会で使用する SDGs の配布用資料 50 部の提供依頼の電話 ・EPO ミーティングスペース使用申込の電話 ・セミナーの広報協力依頼のメール ・EPO ウェブサイトのリニューアルについての問合せ電話 ・なごや環境デーの開催方法変更についての連絡 ・主催イベント申込について問合せの電話 ・地域 ESD 拠点登録についての問合せメール ・企業からグリーン調達について問合せ・相談の電話 ・主催イベント申込について問合せの電話（4 件）
9月	14件	<ul style="list-style-type: none"> ・主催イベント申込について問合せの電話（3 件） ・イベント広報協力依頼についてのメール ・社会福祉法人から助成金説明会告知依頼のメール ・公益財団法人から助成金募集の広報依頼のメール ・企業から SDGs の取組に関して問合せの電話 ・基盤強化：飯山ミーティング登壇者からのフォーラムの広報協力依頼メール ・自治体から連携している高校への SDGs に関する授業依頼について問合せの電話 ・高校から授業依頼についての電話 ・高校から SDGs 講義の日程変更依頼の電話 ・高校からウェブ授業の進行等についての電話 ・NPO から事業の参加募集について広報依頼のメール ・本省計画課から PF 意見交換会についての問合せの電話
10月	8件	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体から後援名義依頼のメール ・公益社団法人から催事の広報依頼のメール ・環境基金説明会の申込方法に関する問合せの電話 ・環境基金説明会の申込に関する問合せの電話（2 件） ・公益財団法人から催事のメルマガ掲載依頼のメール ・自治体から環境学習事業に関する説明会講師紹介について相談の電話 ・公益財団法人から主催フォーラムの広報協力の依頼メール
11月	12件	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO から事業告知協力依頼のメール ・公益財団法人から掲載画像差替依頼のメール ・大学から催事の広報協力について問合せの電話 ・アスベストに関する相談について問合せの電話 ・高校から SDGs に関する出前講座について相談の電話 ・大学から催事の広報協力依頼のメール ・自治体から催事の広報協力依頼の電話 ・主催イベント参加申込について問合せの電話 ・自治体からイベント広報協力についての問合せの電話 ・中部地方環境事務所から中部の適応事例についての問合せ ・大学研究者から SDGs 資料の企画・作成に関する相談（訪問希望）のメール ・大学生からの ESD ネットワークフォーラムへの参加表明連絡
12月	11件	<ul style="list-style-type: none"> ・企業同士の収益事業についてのマッチングの相談の電話 ・コロナワクチンに関する問合せの電話 ・企業から SDGs ・脱炭素を進めるためのパートナーシップ構築について相談の電話 ・企業から相談（面談）日程調整のメール ・企業から再エネに関する情報交換のための訪問についてのメール ・錦 SDGs WEEKS の企画協力者アンケートの回答依頼メール

月	件数	相談・問合せ内容
		<ul style="list-style-type: none"> ・大学及び団体から SDGs チェックリストについての情報提供依頼のメール ・信越自然環境事務所から広報協力依頼のメール ・地域 ESD 拠点から広報協力（チラシ差し替え）の依頼メール ・ERCA から活動団体調査イベントの広報協力依頼の電話 ・信越自然環境事務所から広報協力依頼（原稿提供）のメール
1月	23 件	<ul style="list-style-type: none"> ・独立行政法人から事業広報協力のメール ・自治体から環境省事業（グッドライフアワード）に関する問合せの電話 ・自治体から研修会について確認の電話 ・公益財団法人から事業の後援名義依頼の電話 ・学校から出前授業について問合せの電話 ・NPO 法人から子ども向け SDGs の啓発資料について問合せの電話 ・環境財団からインターンシップ受入れについての電話 ・財団から後援名義申請についての説明の電話 ・環境財団からインターンシップ制度についての確認の電話 ・高校から SDGs の講演に関する日程相談の電話 ・自治体から EPO 主催セミナーについて問合せの電話 ・自治体から EPO 主催セミナーについて問合せの電話(3 件) ・公益財団法人からイベント広報協力依頼のメール ・協働コーディネーターから打合せ日程変更についての電話・メール ・一般の方からゴミについて問合せの電話 ・環境省事業に関する問合せの電話・メール (2 件) ・SDGs 広報資料に関する意見交換と相談についてのメール ・企業から SDGs 関連における連携・協力について相談の電話 ・再生可能エネルギーのオンライン研修の相談についてのメール ・行政機関から地域循環共生圏の勉強会について相談のメール
2月	16 件	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体から ESD フォーラムの広報掲載の可否について電話で問合せ ・一般の方から不法投棄について問合せの電話 ・企業から開催イベント・施設について問合せの電話 ・大学から市民講座用資料の送付要望についてのメール ・公益財団法人から環境講座の講師依頼についてのメール ・全国センターから ESD 講師派遣依頼についてのメール ・商工会議所から地域循環共生圏プラットフォーム事業について問合せの電話 ・自治体から研修会の講師紹介について問合せの電話 ・ゼロカーボン協議会から登壇依頼のメール ・ゼロカーボン協議会から登壇の日程調整のメール ・財務事務所から勉強会登壇の日程決定の連絡メール ・財務局から催事登壇者調整についての電話 ・自治体から SDGs 関連事業（プロポーザル）の評価について相談の電話 ・企業から助成金情報について広報協力依頼のメール ・一般社団法人から ESD プログラムへの協力に関する相談のメール ・一般社団法人から ESD 関連催事の企画等に関する相談のメール
3月	件	
計	00 件	

イ 対話の体制の構築

(ア) 会議・セミナー等地域活動への招聘

- ・ EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターが自治体・団体等から招聘された会議等は次表の通りである。
- ・ 会議出席のほか、講師としての登壇など、関係主体の依頼に対し適宜対応した

県区分	開催日	依頼主体等	依頼事業の名称	招聘内容	謝金
1 愛知	4 月 13 日	「なごや環境デー」実行委員会	「なごや環境デー」実行委員会	委員	あり
2 愛知	4 月 15 日	(協)豊田市鉄工会	第 172 回経営研究会 地道に実践！ 社内の省エネ活動のすすめ	講師	あり

県区分	開催日	依頼主体等	依頼事業の名称	招聘内容	謝金
3 愛知	5月26日	大府市石ヶ瀬会館	SDGs時代の私たちの暮らし方～様々なことにSDGsは繋がっている～	講師	あり
4 愛知	6月8日	愛知県教育委員会	ユネスコスクール支援会議	委員	あり
5 北海道	6月9日	北海道ESD活動支援センター	気候教育プロジェクト意見交換	プロジェクトメンバー	なし
6 愛知	6月19日	愛知県環境局資源循環推進課	あいち環境塾修了生のステップアップ講座	講師	あり
7 石川	7月16日	石川県ユネスコ協会	北陸ESD推進連絡協議会	委員	なし
8 愛知	7月27日	藤前干潟ふれあい事業実行委員会	藤前干潟教員向けプログラム	講師	あり
9 長野	7月28日	ぐるっと長野地域協議会	ぐるっと長野地域協議会学習会	講師、WSの企画・進行	なし
10 北海道	7月30日	北海道ESD活動支援センター	気候教育プロジェクト意見交換	プロジェクトメンバー	なし
11 愛知	7月30日	中部ESD拠点協議会(RCE中部)	第14回中部ESD拠点協議会総会(書面会議)	会員	なし
12 愛知	8月3日	愛知県地球温暖化防止活動推進センター	令和3年度第1回愛知県地球温暖化防止活動連絡調整会議	参加メンバー	なし
13 岐阜	8月6日	岐阜県環境生活部環境企画課	「岐阜県環境学習ポータルサイト構築及び運用ならびに保守等委託業務」プロポーザル評価会議	会議の構成員	あり
14 長野	8月28日	信州ESDコンソーシアム	【ご案内】信州ESDコンソーシアム 令和3年度通常総会	会員	なし
15 愛知	9月1日	東海学園大学	集中講義「ともいきの森からSDGsを考える」	講師	あり
16 愛知	9月14日	愛知県温暖化防止活動推進センター	愛知県地球温暖化防止活動推進員セミナー	ファシリテーター支援	なし
17 三重	9月21日	桑名工業高校	SDGsオンライン講座	講師	なし
18 三重	9月22日	桑名工業高校	SDGsオンライン講座	講師	なし
19 愛知	10月14日	名古屋市立山田東中学校	教職員向けSDGsセミナー	講師	あり
20 石川	10月18日	石川県ユネスコ協会	第2回北陸ESD推進連絡協議会(オンライン)	委員	なし
21 愛知	10月20日	日進市立東小学校4年	SDGs授業	講師	なし
22 愛知	10月20日	岡崎商工会議所工業建設部会合同	工業部会建設部会合同10月例会パート1	講師	あり
23 愛知	11月1日	岡崎商工会議所工業建設部会合同	工業部会建設部会合同10月例会パート2	講師	あり
24 愛知	11月8日	なごや環境大学	NISHIKI2 SDGs WEEKs (SDGs特設コーナー案内、SDGsチェックリスト活用ミニ・ワークショップ)	企画参加	なし
25 愛知	11月2日	名古屋市立山田東中学校	中学生向けSDGsワークショップ	講師	あり
26 愛知	11月11日	名古屋市立山田東中学校	中学生向けSDGsワークショップ	講師	あり
27 愛知	11月17日	愛知県地球温暖化防止活動推進センター、小牧市環境対策課・商工振興課	事業所向け省エネセミナー・SDGs時代の事業所における気候危機対策	話題提供、個別相談対応	あり
28 石川	11月17日	のと共栄信用金庫(ななおSDGsコンソーシアム)	能登SDGs市民大学	講師	なし
29 愛知	11月30日	名古屋市立上野小学校トワイライツスクール	子ども省エネ教室	講師	あり
30 石川	12月4日	北陸ESD推進コンソーシアム	北陸ユネスコスクール交流会	来賓挨拶、参加	なし
31 愛知	12月7日	名古屋市立山田東中学校	中学生向けSDGsワークショップ	講師	あり
32 愛知	12月14日	名古屋市立上野小学校トワイライツスクール	子ども省エネ教室	講師	あり
33 愛知	12月17日	愛知県教育委員会	ユネスコスクール支援会議	委員	あり
34 長野	12月19日	日本環境教育学会中部支部	日本環境教育学会中部支部	活動発表	なし
35 愛知	1月20日	名古屋市立楠西小学校	SDGs子ども教室	講師	あり

県区分	開催日	依頼主体等	依頼事業の名称	招聘内容	謝金
36 愛知	1月21日	愛知県環境活動推進課	環境学習等行動計画普及定着事業 市町村向け研修	講師	あり
37 石川	1月24日	北陸ESD推進コンソーシアム	第3回北陸ESD推進連絡協議会	会議メンバー	なし
38 長野	1月25日	長野県地球温暖化防止活動推進センター	ゼロカーボンナビゲーター養成講座【伝え方】ナッジの活用	講師	あり
39 愛知	1月28日	愛知県地球温暖化防止活動推進センター	気候危機対策交流フォーラム	ファシリテーター	あり
40 愛知	2月11日	中部ESD拠点協議会	中部ESD拠点「SDGsフォーラム2022」	活動発表	なし
41 三重	2月18日	桑名工業高校	SDGsオンライン講座	講師	あり
42 岐阜	3月1日	岐阜財務事務所	GIFU-MOF会(岐阜財務事務所若手勉強会)	講師	なし

(イ) そのほか打合せや地域主体との意見交換会等の実施

- セミナー・フォーラム等の主催行事を実施する際には、関係自治体や関係団体等を訪問し、意見交換・情報交換等を行った。

県区分	実施日	打合せ主体(担当組織・部署)	同席者等	方法	実施内容
1 中部	4月15日	白山自然保護官事務所、信越自然環境事務所	中部地方環境事務所 環境対策課	オンライン	・森里川海業務の今年度実施エリアについての相談 ・EPO主催イベント等への協力依頼
2 岐阜	4月20日	郡上市地域循環共生圏協議会	中部地方環境事務所、 郡上市、アールエ北陸	オンライン	第1回事務局打合せ
3 三重	4月20日	伊勢志摩国立公園管理事務所	中部地方環境事務所 環境対策課	オンライン	・EPO主催イベントへの協力依頼
4 中部	5月6日	SDGs社会教育(社会ESD)研究会	—	オンライン	・ESDC分科会WB顔合わせ・下打ち合わせ
5 岐阜	5月17日	白川郷まるごと体験協議会(トヨタ白川郷自然学校)	—	面談	・森里川海業務の実施意向について打合せ
6 福井	5月20日	ローカルSDクリエーション	—	面談	・地域循環共生圏イベント開催の可能性打診
7 富山	5月20日	(一社)立山黒部ジオパーク協会	—	面談	・ESDダイアログホスト受け入れ打診
8 福井	5月21日	勝山市ジオパークまちづくり課	—	面談	・ESDダイアログ連携参加打診
9 福井	5月21日	勝山市教育委員会事務局	—	面談	・地域ESD拠点登録御礼
10 石川	5月21日	白山市ジオパーク・エコパーク推進課	—	面談	・ESDダイアログ連携参加打診
11 石川	5月21日	白山市ジオパーク・エコパーク推進課	—	面談	・森里川海業務ニーズ聞き取り、連携打診
12 岐阜	6月7日	郡上市地域循環共生圏協議会	アールエ北陸	面談	PF事業の今後の進め方等について打合せ
13 —	6月9日	北海道ESDC	—	オンライン	・北海道ESDC分科会打合せ参加
14 愛知	6月9日	なごや環境大学 (SDGsまちづくりプロジェクトin錦二丁目キックオフセミナー事務局)	—	オンライン	・後援したSDGsまちづくりプロジェクトin錦二丁目キックオフセミナーに参加
15 中部	6月12日	環境教育学会中部支部	—	オンライン	・オンライン総会、交流会参加
16 富山	6月17日	(一社)立山黒部ジオパーク協会	—	面談	・ESDダイアログホスト打合せ
17 富山	6月17日	PECとやま	—	面談	・ESDC分科会打ち合わせ
18 石川	6月18日	のと共栄信用金庫	本省金融室、中部地方環境事務所環境対策課	面談	PF事業の今後の進め方等について打合せ
19 —	6月21日	(一社)日本ファンドレイジング協会	—	面談	・協働コーディネーター、中部のPF事業、地域循環共生圏

県区分	実施日	打合せ主体(担当組織・部署)	同席者等	方法	実施内容
					づくりの動向等について情報交換
20	長野	6月26日 長野財務事務所、いいやまコミュニティカレッジ、里山ウェルネス研究会	—	オンライン	・飯山におけるSDGsの連携・協力の可能性について打合せ
21	長野	6月30日 小布施スマートテロワール	パシフィックコンサルタント、環境省本省計画課、中部地方環境事務所環境対策課	オンライン	・事業化支援キックオフミーティング、オブザーバー参加
22	愛知	7月3日 名古屋市立山田東中学校		面談	・SDGs達成の担い手づくり推進事業の運営について相談
23	長野	7月5日 生活クラブ事業連合生活協同組合連合会	環境計画課、中部地方環境事務所	オンライン	・7/28ぐるっと長野勉強会の事前打合せ
24	福井	7月7日 WAC おばま		面談	・協働コーディネーター事業の計画等、第1回WS9月13日18:30~
25	石川	7月9日 白山市ジオパーク・エコパーク推進課	—	面談	・森里川海業務会合についての打合せ
26	長野	7月10日 長野NPOセンター		オンライン	・7月13日開催のオンラインフォーラム事前打合せ
27	愛知	7月12日 RCE中部		その他	・第2回サステナ政策塾オブザーバー参加
28	愛知	7月14日 名古屋市環境企画課	—	面談	・錦二丁目SDGsWeekへのEPO参画について打合せ
29	岐阜	7月14日 岐阜財務事務所	中部地方環境事務所	面談	・PF事業についての情報交換
30		7月14日 北海道ESDC		オンライン	・第1回気候変動教育勉強会参加
31	愛知	7月20日 名古屋市立山田東中学校		面談	・SDGs達成の担い手づくり推進事業プロジェクト計画調整打合せ
32	岐阜	7月26日 郡上市地域循環共生圏協議会	アールエ北陸、郡上市企画財政課、中部地方環境事務所	面談	DMOによる取組状況等の情報共有、PF事業の今後の進め方について確認
33	—	7月26日 北海道ESDC		オンライン	・第2回気候変動教育勉強会参加
34	愛知	7月28日 名古屋市立楠西小学校		面談	・SDGs出前授業の打合せ(1月20日)
35	愛知	7月29日 岡崎商工会議所		面談	・SDGs講座の開催について、打合せ
36	岐阜	8月2日 岐阜県環境企画課		面談	・環境学習ポータルサイトの開設に関わる事業者選定審査について打合せ
37	福井	8月5日 SDクリエーション/EPO中部・協働コーディネーター		面談	協働コーディネーター連携フォーラム業務について打合せ
38	長野	8月25日 小布施スマートテロワール	パシフィックコンサルタント、環境省本省計画課、中部地方環境事務所環境対策課	オンライン	・PF事業の事業化支援打合せ
39	石川	9月21日 のと共栄信用金庫	本省金融室、中部地方環境事務所環境対策課	オンライン	・PF意見交換会についての打合せ
40	石川	9月29日 のと共栄信用金庫	のとSDGsコンソーシアム	現地出席	・PF意見交換会の運営・出席
41	富山	9月30日 PECとやま	SDGs社会教育研究ワーキング委員	その他	・SDGs社会教育～10/30実践セミナーの現地機材リハ(六渡寺海岸)
42	富山	10月1日 (一社)立山黒部ジオパーク協会		面談	・11/13-14ESDダイアログの打合せ

	県区分	実施日	打合せ主体(担当組織・部署)	同席者等	方法	実施内容
43	愛知	10月5日	日進市立東小学校	環境創造研究センター	面談	・10/20SDGs 出前教室打合せ
44	福井	10月8日	越前市産業環境部	合同会社ローカルSDクリエーション(EPO中部・協働コーディネーター)	面談	・11/20 共生圏フォーラムの後援依頼の打合せ
45	福井	10月8日	越前市エコビレッジ交流センター、さかのくち活性化協議会		面談	・11/20 共生圏フォーラムの登壇の打合せ
46	福井	10月8日	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま		面談	・11/20 共生圏フォーラムの登壇の打合せ
47	福井	10月8日	福井県安全環境部		面談	・11/20 共生圏フォーラムの後援依頼の打合せ
48	石川	10月16日	のと共栄信用金庫		現地出席	・ななお SDGs コンソーシアムの設立式への出席
49	岐阜	10月19日	郡上市地域循環共生圏協議会/郡上市アウトドア事業者協議会	合同会社ローカルSDクリエーション(EPO中部・協働コーディネーター)	オンライン	・11/10 意見交換会についての打合せ
50	福井	11月2日	福井県里山里湖海研究所		面談	・11/20 共生圏フォーラムの登壇の打合せ
51	石川	11月2日	白山市ジオパーク・エコパーク推進課	郡上市地域循環共生圏協議会	面談	・3/2-3 森里川海会合の企画打合せ
52	岐阜	11月6日	郡上市地域循環共生圏協議会		現地見学	・郡上市アウトドアワーカーへのPF 郡上の出展の様子を見学
53	岐阜	11月10日	郡上市地域循環共生圏協議会/郡上市アウトドア事業者協議会		現地出席	・PF 意見交換会の運営・出席
54	福井	11月25日	WAC おばま、小浜市(未来創造課、環境衛生課、商工観光課)、小浜商工会議所	GEOC	面談	・基盤強化会合についての打合せ
55	-	11月26日	GEOC		面談	・PF 事業についての情報交換
56	中部	11月26日	中部カンファレンス	郡上市地域循環共生圏協議会	オンライン	・中部カンファレンスを聴講
57	岐阜	12月1日	郡上市地域循環共生圏協議会		オンライン	・PS 基盤強化会合、今後のPF 事業についての打合せ
58	岐阜	12月13日	三承工業		オンライン	・SDGs 取組の意見交換
59	-	12月14日	専修大学商学部	豊田市未来都市推進課	面談	・SDGs 取組の意見交換
60	愛知	12月15日	豊田市未来都市推進課		現地面談	・学生サミット自治体 SDGs 取組発表依頼
61	-	12月16日	(一社)日本ファンドレイジング協会		面談	・EPO 中部・協働コーディネーターとの情報交換
62	北陸	12月21日	北陸財務局	中部地方環境事務所	オンライン	・PS 基盤強化の北陸3会合についての説明と登壇依頼の打合せ
63	岐阜	12月22日	岐阜市未来創造研究室	中部地方環境事務所	現地面談	・学生サミット自治体 SDGs 取組発表依頼
64	石川	12月24日	ななお SDGs スイッチ		オンライン	・PF 事業についての今後の展開についての情報共有打合せ
65	愛知	12月27日	豊田市未来都市推進課		現地面談	・学生サミット自治体 SDGs 取組発表打合せ
66	石川	1月6日	珠洲市	名古屋市立大学三浦研学生G	面談	・学生サミット自治体 SDGs 取組発表打合せ
67	愛知	1月20日	名古屋市立大学三浦研学生G		オンライン	・学生サミット学生グループ事前打合せ
68	岐阜	1月22日	岐阜大学環境サークルG-amet		オンライン	・学生サミット学生グループ事前打合せ
69	長野	1月27日	松本大学田開研学生G	中京大学草薙研学生G	オンライン	・学生サミット学生グループ事前打合せ
70	愛知	1月31日	中京大学草薙研学生G		オンライン	・学生サミット学生グループ事前打合せ

	県区分	実施日	打合せ主体(担当組織・部署)	同席者等	方法	実施内容
71	-	1月31日	専修大学岩男研、大崎研学生G		オンライン	・学生サミット学生グループ事前打合せ
72	石川	2月1日	金沢星稜大学新研学生G		オンライン	・学生サミット学生グループ事前打合せ
73	石川	2月2日	JAICA 北陸		オンライン	・再エネ講座開催企画の相談打合せ
74	愛知	2月3日	中部大学エコマネーチーム		オンライン	・学生サミット学生グループ事前打合せ
75	愛知	2月7日	日本福祉大学学生 G		オンライン	・学生サミット学生グループ事前打合せ
76	-	2月15日	専修大学岩尾、大崎研		面談	・ローカル SDGs 普及に向けたEPO 中部 ESDC の取組、研究紹介と意見交換
77	三重	2月17日	百五銀行ソリューション営業部コンサルティング課		面談	・取引先の事業所の SDGs 取組の普及についての意見交換
78	愛知	2月21日	名古屋市環境政策課		面談	・次年度名古屋市事業プロポ評価委員依頼
79	長野	2月21日	長野 NPO センター		オンライン	・ワークショップ開催打ち合せ
80	愛知	2月22日	名古屋市立山田東中学校		面談	・SDGs達成の担い手づくり推進事業プロジェクト計画報告意見交換
81	長野	2月22日	長野 NPO センター		オンライン	・ワークショップ開催打ち合せ
82	長野	3月1日	北海道子ども会育成連合会		オンライン	・全国子ども会育成中央会議・研究大会分科会企画について意見交換アドバイス
83	富山	3月4日	立山黒部ジオパーク協会		オンライン	・ダイアログ開催後の行動変容についてのヒヤリング
84	愛知	3月8日	中部大学共同利用共同研究所		オンライン	・学生サミット事例に基づく研究発表

ウ 定例報告

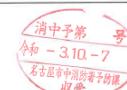
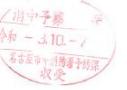
- 前項の対話の構築等に関わる EPO 中部が関わる審議会・委員会・検討会・会議等（他の団体が主体のもの）への出席状況や相談対応状況のほか、EPO 施設の運営・利用状況については、毎月、所定の書式で中部地方環境事務所へ提出、報告を行った。

(3) 施設の維持・管理

ア オフィスの防火・防災管理及び解錠・施錠管理

- 防火・防災管理については、法規定に則り、2018 年度に常勤スタッフが「防火・防災管理者」講習を受講した上で消防計画書等を作成の上、管轄消防署への届出を行った。
- 防火・防災に関わる身のまわりのチェックを定期的（週 2 回程度）に実施しているほか、7 月 27 日にはビル内一斉の防火・防災検査が実施され、ビル管理会社を通して、中部地方環境事務所による記名済みの検査結果書類を 9 月 3 日付で消防署へ提出した。
- いずれの関係書類等も「防火管理台帳」による保管を行っており、また、各種届出等関係書類は、中部地方環境事務所へも提示・確認を行った。

【提出した防火・防災検査報告書】

別記様式第1	副
防火対象物点検結果報告書 令和 3 年 10 月 9 日 名古屋市中消防署長殿 届出者 住所: 名古屋市中区三の丸 2-5-2 氏名: 中部地方環境事務所長岩田浩平 電話番号: 052-755-2130	
下記のとおり防火対象物の点検を実施したので、消防法第8条の2の2第1項の規定に基づき報告します。 記	
防火対象物	所在地: 名古屋市中区錦二丁目4番3号 錦パークビル 4階 環境省中部環境パートナーシップオフィス 用途: 事務所 令別表第一 (15項) 構造・規模: 耐火造 地上 22 階 地下 4 階 床面積: 3,335.78 m ² 延べ面積: 27,227.54 m ² 点検実施日: 令和 3 年 7 月 27 日 点検票: 別紙のとおり 消防法施行規則第4条の6 第2項の適用: <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 第1号 <input type="checkbox"/> 第2号 <input type="checkbox"/> 第3号 <input type="checkbox"/> 無
点検者	住所: 名古屋市港区秋葉二丁目90番地 氏名: 渡邊 浩成 (熊美防災株式会社 中部支社 052-589-3249) 免状: 講習機関名: 免状交付年月日: 免状交付番号: 再講習受講年月日 (例) 日本消防協会 安全センター 平成 30 年 12 月 4 日 第 441600203 号 年 月 日 ※受付欄: ※経過欄: ※備考  
備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とすること。 2 消防法施行規則第4条の2の第2項の適用の欄は、当該規定が適用される場合は「有」の□にレ点を記入し、適用されない場合は「無」の□にレ点を記入すること。なお、「有」の場合は、同欄各号のうち適用される規定の□にレ点を記入すること。 3 印の欄は、記入しないこと。	
別記様式第1	副
防災管理点検結果報告書 令和 3 年 10 月 9 日 名古屋市中消防署長殿 届出者 住所: 名古屋市中区三の丸 2-5-2 氏名: 中部地方環境事務所長岩田浩平 電話番号: 052-755-2130	
下記のとおり防災管理対象物の点検を実施したので、消防法第36条第1項において準用する同法第8条の2の2の第1項の規定に基づき報告します。 記	
防災管理対象物	所在地: 名古屋市中区錦二丁目4番3号 錦パークビル 4階 環境省中部環境パートナーシップオフィス 用途: 事務所 令別表第一 15 項 構造・規模: 耐火造 地上 22 階 地下 4 階 PH 2 階 床面積: 3,335.78 m ² 延べ面積: 27,227.54 m ² 点検実施日: 令和 3 年 7 月 27 日 点検票: 別紙のとおり 点検者: 住所: 名古屋市港区秋葉二丁目90番地 氏名: 渡邊 浩成 (熊美防災株式会社 中部支社 052-589-3249) 免状: 講習機関名: 免状交付年月日: 免状交付番号: 再講習受講年月日 (例) 日本消防協会 安全センター 平成 30 年 5 月 14 日 第 642101532 号 年 月 日 ※受付欄: ※経過欄: ※備考  
備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とすること。 2 印の欄は、記入しないこと。	

イ 施設・設備の維持管理

- 当施設の今期の来館件数とメール・電話による問合せ件数の合計は次の通りであった。

【施設の運用状況・使用状況等】

業務実施日数・計(日)	開館日数・計(日)	来館者数・計(人)		来館件数・計		メール・電話による問合せ件数(件)	スタッフ体制・計			
		日平均(人/日)	日平均(人/日)	日平均(人/日)	日平均(件/日)		日平均(人/日)	日平均(人/日)	日平均(人/日)	
4月	21	21	15	0.7	6	0.3	11	0.5	65	3.1
5月	18	18	7	0.4	5	0.3	10	0.6	66	3.7
6月	24	22	10	0.5	6	0.3	13	0.6	76	3.2
7月	23	21	10	0.5	7	0.3	8	0.4	77	3.3
8月	19	17	9	0.5	5	0.3	14	0.8	54	2.8
9月	22	20	4	0.2	3	0.2	14	0.7	69	3.1
10月	23	21	15	0.7	8	0.4	8	0.4	71	3.1
11月	23	20	28	1.4	25	1.3	12	0.6	68	3.0
12月	23	18	14	0.8	8	0.4	11	0.6	69	3.0
1月	21	19	14	0.7	10	0.5	23	1.2	62	3.0
2月	21	18	14	0.8	6	0.3	16	0.9	79	3.8
3月										
計	238	215	140	0.7	89	0.4	140	0.7	756	3.5

(参考) 前年度・2020年度の実績

業務実施日数・計(日)	開館日数・計(日)	来館者数・計(人)	来館件数・計		メール・電話による問合せ件数(件)		スタッフ体制・計	
			日平均(人/日)	日平均(人/日)	日平均(件/日)	日平均(人/日)		
4月	22	21	4	0.2	3	0.1	18	0.9
5月	18	18	6	0.3	2	0.1	16	0.9
6月	22	22	15	0.7	10	0.5	23	1.0
7月	22	21	16	0.8	10	0.5	28	1.3
8月	21	17	16	0.9	5	0.3	12	0.8
9月	24	20	23	1.2	10	0.5	25	1.3
10月	23	23	21	0.9	13	0.6	11	0.5
11月	26	20	16	0.8	6	0.3	13	0.7
12月	23	19	12	0.6	6	0.3	11	0.6
1月	19	19	16	0.8	9	0.5	8	0.4
2月	21	18	14	0.8	6	0.3	18	1.0
3月	23	23	15	0.7	9	0.4	11	0.5
計	264	241	174	0.7	89	0.4	194	0.8
							835	3.5

ウ オフィスの運営

- オフィスの運営及び業務実施に必要な機材・消耗品等を揃え、その使用料の支払、EPO 中部及び中部地方 ESD センターの HP・メールアドレス・固定 IP の維持管理費用の支払等、維持管理に必要な事務を適宜実施した。

4 協働取組の促進のための業務

(1) 地域循環共生圏づくりフォーラムの開催

①日時

- 2021年 11月 20日（土）13:30～16:30



②主催等

- 主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス
- 後援：福井県、越前市、しらやま振興会、坂口地区うららの町づくり振興会、越前市エコビレッジ交流センター
- 協力：合同会社ローカルSDクリエーション

③開催場所

- 越前市エコビレッジ交流センター 大ホール

④参加者

- 23名（登壇者5、事務局3含む）

⑤プログラム

○あいさつ/地域循環共生圏について

環境省中部地方環境事務所環境対策課 溝手 康人 氏

○「フナを食べながら三方五湖の自然再生を考える」

福井県里山里湖海研究所 研究員 樋口 潤一 氏

○取組紹介

エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま 橋本 弥登志 氏

さかのくち活性化協議会 野村 みゆき 氏

合同会社ローカルSDクリエーション 三田村 佳政 氏

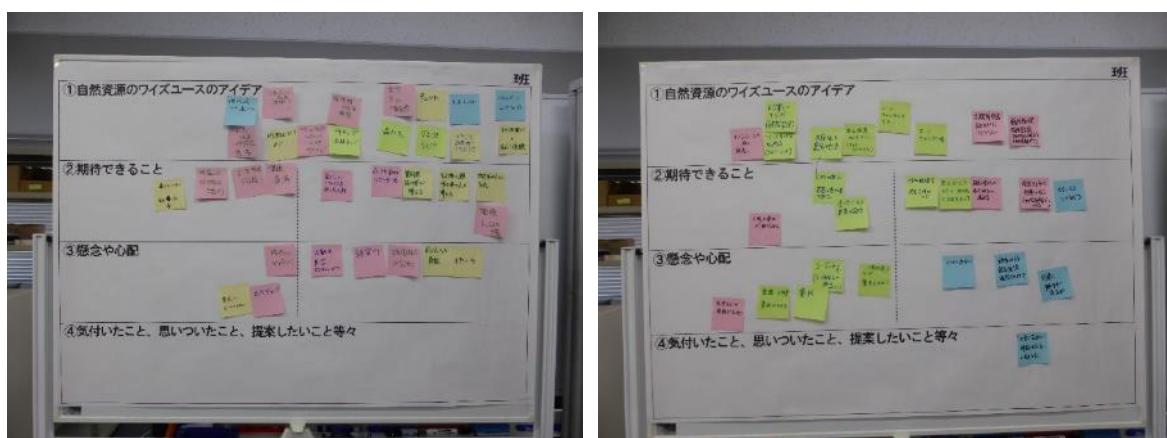
○「森里川海ワイスユースから越前エリアの地域循環共生圏を考えてみる！」

フアシリテーター：EP0中部

○講評

福井県里山里湖海研究所 研究員 樋口 潤一 氏

合同会社ローカルSDクリエーション 三田村 佳政 氏



⑥開催案内チラシ

越前の森里川海で取り組む地域循環共生圏フォーラム

里山里海資源の収益化と 地域循環の創出を目指して

主催:環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)

後援:福井県、越前市、しらやま振興会、坂口地区うららの町づくり振興会、越前市エコビレッジ交流センター

協力:合同会社ローカルSDクリエーション

日時: 2021年11月20日(土)13:30~16:30

会場: 越前市エコビレッジ交流センター 大ホール

福井県越前市湯谷町25-25-2 《Web》<http://www.ecovilg.jp>

《Googleマップ》<https://goo.gl/maps/wQ2sr13LfyW7M0fu9>

参加申込方法 参加無料／要・事前申込

申込フォーム <https://forms.gle/hF8PHrfHBvxzsyAT9> →



WEB [epo-chubu.jp](http://www.epo-chubu.jp)
[https://www.epo-chubu.jp](http://www.epo-chubu.jp)

 @EPOchubu

Eメール info@epo-chubu.jp

①氏名(フリガナ)、②連絡先(メールアドレスか電話番号)、③ご所属先を記載して、
「件名:1120フォーラム」で11月17日(水)までに送信願います。

【お願い】新型コロナウイルス感染拡大防止にご協力願います。本フォーラムの参加者数は会場定員の半分以下とし、参加者は原則、越前市とその周辺市町の在住者・通勤者、及び活動団体の方のみとさせていただきます。また、事前の参加申込と、ご来場時のマスク着用が必須となります。開催日当日、発熱のある方や体調の悪い方は来場をお控えください(その場合の不参加のご連絡は不要です)。

プログラム

ごあいさつ「地域循環共生圏について」

環境省中部地方環境事務所

基調講演「フナを食べながら三方五湖の自然再生を考える」

講師: 福井県里山里海湖研究所 研究員 樋口潤一 氏

取組紹介① エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま 橋本弥登志 氏

取組紹介② さかのくち活性化協議会 野村みゆき 氏

取組紹介③ 合同会社ローカルSDクリエーション 三田村佳政 氏

ディスカッション「森里川海ワיזユースから越前エリアの地域循環共生圏を考えてみる!」

進行: 中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)



(2) 協働コーディネーターとの連携による実践的取組【北陸地域】

ア 多様な主体との協働

(ア) 地域循環共生圏と地域の担い手づくり

①経緯と現状課題

■昨年度のEPO中部との連携取組

小浜市では昨年度EPO中部との共催で「食のまちづくり」をテーマに地域循環共生圏への理解を深めるワークショップとフォーラムを開催してきた。事業を進め地域の実情を探っていく中で、人口減少化の厳しい現実における地域での「人口減少社会に適応していく地域づくり」という選択肢を見出すことができた。

■今事業で重視した地域課題

小浜市では平成14年に施行された「食のまちづくり条例」を受けて市民主体の地域づくりに長らく取り組んできたが、ボランティアとしての活動の限界もあってやや停滞気味にある中で、活動拠点や財政的基盤づくりのために公民館のコミュニティセンター化を進めた地域づくりの活性化を目指している。その運用母体として想定されている「まちづくり協議会」が全ての地区に設置され、今後コミュニティセンター化に向けて取組を進めていくこととしているが、地域での理解や展開が難しく停滞している現状にある。

②取組の内容

■地域循環共生圏を意識したまちづくりの啓発

まちづくり協議会を対象として、地域の統合や広範囲に地域づくりを考え新たな魅力（コンテンツ）をつくっていくコミュニティセンター化事業に地域循環共生圏の観点を取り入れたワークショップやオンライン講座を開き、地域循環共生圏への理解促進とコミュニティセンター化推進を図った。

イ ワークショップ及びオンライン講座の実施

(ア) 小浜市地域循環共生圏ワークショップ及びオンライン講座

①身近な実例から学ぶ、これからの地域ブランド

■第1回ワークショップの実施

2021年9月11日（土）に実施し、計14名の参加があった。会場は、小浜市にとって貴重な文化的価値がありながらも、これまで放置され無活用であった北前船の商船別邸を、官民協働により地域のコミュニースペースやカフェとして再生させた GOSHOEN（護松園）で行った。小浜市では近年GOSHOENのように、地域に根差した歴史文化的資源を活用した官民協働や事業者連携による取組が目立つつあり、ゲストスピーカーとして下仲隆浩氏（小浜市文化交流課）、御子柴北斗氏（㈱まちづくり小浜）、松本啓典氏（㈱マツ勘/GOSHOENプロジェクト主導）を迎えて小浜市で起こっている新たな取組の数々を行政や民間それぞれの立場から紹介していただき、ワークショップでは参加者とともに地域にある資源や課題を地域コンテンツとして共有し、保全・活用や事業性の収支で分類するマッピング形式を用いて、地域の持続可能性について意見交換を行った。

■ワークショップの感想

小浜市は「文化財の宝庫」と呼ばれるほど深い歴史文化を持ち、多くの文化財を擁する自治体であるため、これまで“保全”姿勢であった文化財分野に対し、全国に先駆けて文化財の“活用”を地域計画として強く打ち出している。（下仲氏）小浜市としてはこの“多くの

文化財”が地域にとっての特色や強味になる一方で、その“多すぎる文化財”が財政的な圧迫を招いている一面もある。今後、人口減少や財源の縮小が懸念される時代においては「活用しなければ守れない」という切実な実情もあり、持続可能性を考える上で、小浜市にとっては特に身近に感じられる題材であった。そのような中で、市内の松永地区の国宝寺院と地区内の事業者を結び付けた体験ツアープログラムの開発（御子柴氏）や民間企業主導のGOSHOEN（松本氏）はそれを体現した取組であると言える。特にGOSHOENにおいては始まつたばかりとはいえ、企業的観点から言えば事業単体としては営業赤字が想定されているが、他の利益事業から補填して持続させる意志を示されており、経済的価値より社会的価値の高さを見込んで企業価値を向上させるようなCSRの姿勢が見て取れ、地域にこのような企業が出てきたことは大変希望に思えた。

「これから地域ブランド」としたのは、小浜市としてこれまでの地域ブランドというものの捉え方が過去の一村一品運動の如く“コンテンツ（商品）”中心につくられていたと感じていたからである。しかし、SDGsのように“関係性や持続性”が重視される時代においてはブランドの作り方も変化が求められていると思われる。紹介されたような小浜市で起こっている新たな取組の数々は共通してそこに言及されていたことから、確実に変化の兆しあり、地域のまちづくりに関わる層と共有できたことは意義深いと思えた。

③実践地域から学ぶ、地域循環共生圏の進め方

■オンライン講座の実施

2021年10月20日（水）と11月1日（月）の2回に分けて実施し、延べ20名の参加があった。今講座では実際に環境省の地域循環共生圏プラットフォーム事業に採択された中部地方の地域から学んだ。1回目は長野県小布施町の実例「北信スマートテロワール～農業を核とした自立（自律）分散型農村による共（競）創ネットワーク～」／講師：勝亦達夫氏（信州大学キャリア教育・サポートセンター講師）、2回目に石川県七尾市 の実例「SDGs推進企業が生まれる街“ななお”」／講師：入口翔氏（七尾商工会議所 SDGsプロジェクト推進室室長／のと共栄信用金庫ふるさと創生部次長）をオンラインで招いて取組紹介を聴講し、意見交換を行った。

■オンライン講座の感想

どちらも環境省の地域循環共生圏プラットフォーム事業に採択されている地域のため、両地域の具体的な取組内容については感想からは割愛させていただくが、共通として地域循環共生圏を進めていく上で重要な感想としては“取組を支える専門的な中間機能の役割を持った組織（もしくは人材）の必要性”にあると思えた。小布施町では北信スマートテロワールが、七尾市では能登共栄信用金庫や商工会議所がその中間機能を担って専門性を磨く組織として動いているが、その必要性が認められた時、誰（どこ）がその価値を保証するのかが次の課題として見えているようであった。翻って小浜市の場合、当法人は中間支援を担ってはいるが保証のないボランティア組織であり、今取組の対象としているまちづくり協議会も性質的には中間組織に当たると思われるが特に専門性もない一般市民の集まりである。事実、今講座を聴講した高齢の参加者たちからは率直に「話が難しくて（複雑で）よく分からぬ」という反応が見られた。比較的若い世代は理解を示していたが、実際に若手参加者からも意見があったように、地域の中で発言力や権限を持っているのはその「よく分からぬ」と言われるような高齢の方々である。ある意味では、その現実的なギャップと他の地域と比較することで小浜市の現状レベルを測ることができた良い機会であったとも思える。

④まちづくり協議会扱い手育成研修会（ワークショップ）

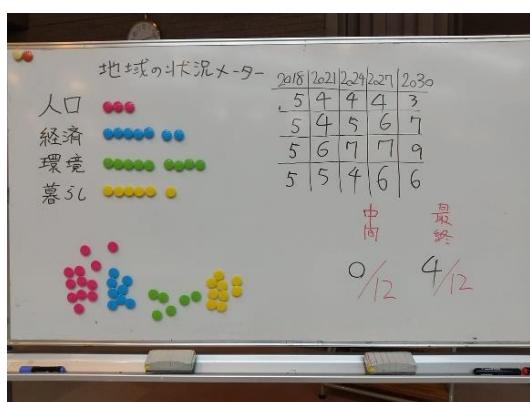
■第2回ワークショップの実施

2021年12月17日（金）に実施し、40名以上の参加があった。これまでのワークショップやオンライン講座ではコロナ禍やオンライン環境不足なども影響して参加が少なかったこともあり、小浜市が元々予定されていたまちづくり協議会の研修会と抱き合わせ、小浜市と共同主催の形で開催した。二部制で、第一部は内山秀樹氏（仁愛女子短期大学生活科学学科教授）講師による「地域循環のまちづくりについて」の講演、第二部は榎原秀典氏（NPO法人エコプラザさばえ）をファシリテーターに迎えてSDGsカードゲーム（地方創生版）を用いたワークショップを行った。

■ワークショップの感想

個人的にSDGsカードゲームは過去に二度体験したことがあり、SDGsや地域循環共生圏のように複雑な概念を体感的に理解する上では、カードゲーム以上のツールと出会ったことがないというくらい効果的な手法に思っていた。しかし、SDGsへの理解が未だ示されていない小浜市では、カードゲームの機会を単独で設けても人が集まらないことは明白であったため見送っていたが、小浜市と共同主催の研修会の中で行えるのは絶好の機会であった。カードゲームの肝はSDGs同様、地域の環境・社会・経済の状況がパラメーター化されていることにある（地方創生版では人口のパラメーターも）。プレイヤーたちが地域で様々な分野の事業を進めていくと関係性のあるパラメーターが変動する仕組みで、最終的にはそのパラメーターをバランス良く伸ばしていくことが持続可能な地域をつくることになる。プレイヤーの行動が地域にどのような効果や影響を及ぼしているかがパラメーターによって視覚化されているため、当事者意識を持って関係性の把握や理解が進む。そして最終目標（持続可能な地域）を達成するにはプレイヤー同士の協力（協働）が必要になる。

参加者もルールを理解するのに最初は戸惑いが見られたが、ゲームが進むにつれて白熱し活発化した会場の光景が見られ、参加者の口々から「現実と同じだ」という言葉が何度も聞けたことから、SDGs及び地域循環共生圏の理解については一定の効果が見込まれたと思われる。反省点としては、スケジュールの時間的制約から“振り返り”の時間が十分に取れなかつたことがある。



ウ 情報共有

（ア）今取組を終えての感想

①小浜市のことから

■ 今後の展開について

今後の展開は未定である。昨年度のEPO中部との協働事業では、小浜市で地域循環共生圏への理解を進め、環境省の地域循環共生圏プラットフォーム事業に申請する運びがあつたが、当初テーマにしていた小浜市の「食のまちづくり」を、それに深く関わる行政部局から消極的な姿勢を示されてしまったことから、協働事業でも後半は路線変更を加え、プラットフォーム事業でも小浜市としての主軸を抜きとった申請書を作ることを余儀なくされた経緯があり、不採択の結果は当然の帰結だと受け取っている。そのため、現在当法人から地域循環共生圏に関わる事業に申請する予定はない。今取組も貴重な機会を与えていただき、新たに様々な気づきを得ることができたが、単発に終わってしまう可能性が高いことは残念に思う。

今取組で対象としたまちづくり協議会の状態を見れば引き続きフォローアップは必要であると考えられるが、“取組を支える専門的な中間機能の役割を持った組織”として保証されているのは、小浜市の場合は現状では行政に当たるため、行政の動きに応じて必要があれば協力していきたい。

（3）協働コーディネーターとの連携による実践的取組【信州地域】

（ア）信州における協働取組の促進のための業務

長野県は平成30年6月から「SDGs 未来都市」として、SDGs の達成に向けた主な取組をまとめた計画を策定、実行している。学びと自治の力による「自立・分散型社会の形成」を掲げ、ステークホルダーが主体的に学び、協働しながら地域の課題解決に取り組み、多様な地域の個性を活かす自立・分散型社会をめざしている。

これまでに、全国に先駆けて SDGs 推進企業登録制度や信州環境カレッジを立ち上げるなど SDGs に向けアクションする主体の育成等に取り組んできている。今後は一層、その主体がパートナーシップを組んで、具体的な地域づくりのプロジェクトを県下各地で促進していく必要がある。

上記の長野県における背景を踏まえて、以下の事業を実施した。なお、本事業との併催により信州環境カレッジ（長野県環境保全協会主催）との協働による連続講座「地域循環共生圏コーディネーター育成講座」を開催し、協働取組の促進に向けて相乗効果を狙った。

(イ) フォーラム又はワークショップの実施・活動主体へのフィードバック

①「ローカルSDGsスタートアップフォーラム 地域循環共生圏ってなんだ?！」

2021年7月13日(火) 13:00~15:30(オンライン)

**ローカルSDGs
スタートアップ
フォーラム**

地域循環共生圏ってなんだ?!

「地域循環共生圏コーディネーター育成講座」

SDGs

対象者

SDGsや地域づくりに関心ある一般市民(特に学生、若者)
企業の方(長野県SDGs推進企業等)
NPO、市町村職員、地域おこし協力隊等
※自治会、市民団体など、グループの参加を歓迎します。

開催日: 7月13日(火) 13:00から15:30 (オンラインにて開催いたします!)

定員: 30名・名前(受講料:無料)
申し込み方法: 信州環境カレッジ運営事務局まで※詳しくは表紙にて

地域循環共生圏とは? 各地域が足りてある地域資源を最大限活用しながら自立・分担型の社会を形成しつつ、地域の持続性に応じて資源を循環的に使いつつ、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す考え方であり、地域でつながりの本質(ローカルSDGs)を活用するものです。

主催: 特定非営利活動法人長野県NPOセンター、長野県中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部) 共催: 長野県

申し込み

1 講演 「地域循環共生圏とは」 環境省中部環境事務所環境対策課長 曽山 信雄氏

2 話題提供 「信州SDGsの推進」 長野県企画振興部総合政策課 矢島 晋平氏

3 事例発表 「先輩」から聞く~地域循環共生圏事例から小布施町を中心とした北信地域 一般社団法人スマート・テロワール協会 勝亦 達夫氏

4 プレゼン 「こうなったらしいなあ芋井地区」~地域の将来像を見える化する~ 長野県NPOセンター 山室 秀俊氏

5 「見える化プログラム」解説 環境省中部環境パートナーシップオフィス 原 理史氏

6 ワーク&グループディスカッション 「持続可能な“ジモト”づくりをはばむものはなにか?」

7 オンライン講座 「地域循環共生圏コーディネーター育成講座」紹介

お申し込み方法 申込期限: 7月7日(水)まで

信州環境カレッジ「地域循環共生圏」のお申し込みフォームからお申し込みください
※お申し込み後、オンラインの接続方法等についてお知らせします。
※グループで申し込みをされる場合は、その団体名に記載し代表者の方がお申し込みをお願いします。

お問い合わせ先 (土、日、祝日を除く9:00~17:00 EPO中部は9:30~)
TEL: 026-269-0015 E-mail: info@npo-nagano.org
TEL: 026-237-6620 E-mail: shinshu-ecollege@nace-portal.jp
TEL: 052-218-8605 E-mail: office@epo-chubu.jp

QRコード

参加者: 54名(講師・スタッフ含)(後日動画再生回数46回)

講演: 「地域循環共生圏とは」

環境省中部環境事務所環境対策課長 曽山信雄氏

話題提供: 「信州SDGsの推進」

長野県企画振興部総合政策課 矢島晋平氏

事例発表: 「先輩」から聞く~地域循環共生圏事例から小布施町を中心とした北信地域 北信スマートテロワール~

一般社団法人スマート・テロワール協会 勝亦達夫氏

プレゼンテーション: 「こうなったらしいなあ芋井地区」

NPO法人長野県NPOセンター 山室秀俊

「見える化プログラム」解説

環境省中部環境パートナーシップオフィス 原理史氏

ワークショップ: 「持続可能な“ジモト”づくりをはばむものはなにか?」

問1 みなさんが循環共生圏づくりを具体的にすすめようとしている地域とそこでやりたい活動はなんですか?

問2 今後数十年を考えたとき、1の地域で持続可能性にマイナスの要因となるものはなんですか?その理由はなんですか?



【所感】

スタートアップということで、行政、民間（市民活動団体、企業等）、自治組織など多様な主から多くの参加者があった。全国的な地域循環共生圏づくりの目的、事業進捗、事例等について、また長野県におけるローカル SDGs に向けて包括的な取組みなどが共有され、ワークショップでは、自分の地域での課題と結びつけることにより、参加者それぞれが、今後の地域づくりに生かされる学びや気づきを得る大きなきっかけとなった。今後の各論的な講座への期待の声も多く寄せられた。

また、事例発表の中で触れられた災害と農業を結び付けた活動（一般財団法人日本笑顔プロジェクト “n o u v o” には注目度も高かったことから、その後の連続講座の講師として登壇してもらった。

②「ローカル SDGs テイクオフセミナー～持続可能なジモトづくりを目指して～

2022年2月25日(金)13:30～16:30

リアル会場 長野市もんぜんぶら座・安曇野市役所 オンライン併用



参加者：30名（講師・スタッフ含）

講 師：中部大学中部学術高等研究所 原 理史氏

内 容：

今後、地元で地域循環共生圏づくりをすすめるコーディネーターとして活動するためには、自分の取組と協働する関係先等を整理し、今後の取組につなげる。

第一部 あなたの行う地域づくりとは？（60分）

自分の活動が目指すビジョン、内容、協働相手、期待される効果、実施上の課題を整理し、参加者同士共有して、共通の目標や協働の可能性を考えた。

第二部 あなたの地域づくりはローカルSDGs？（60分）

自分の活動がローカルSDGsの実現にどのように関わっているか見える化し、取組の効果や阻害要因を検討した。グループワークは参加者が地元の地域毎にわかれ、互いの活動の協働の可能性等を探った。

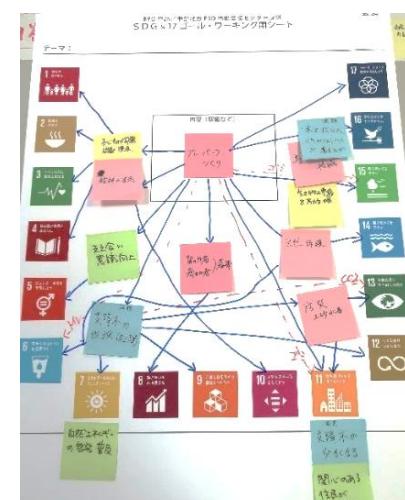
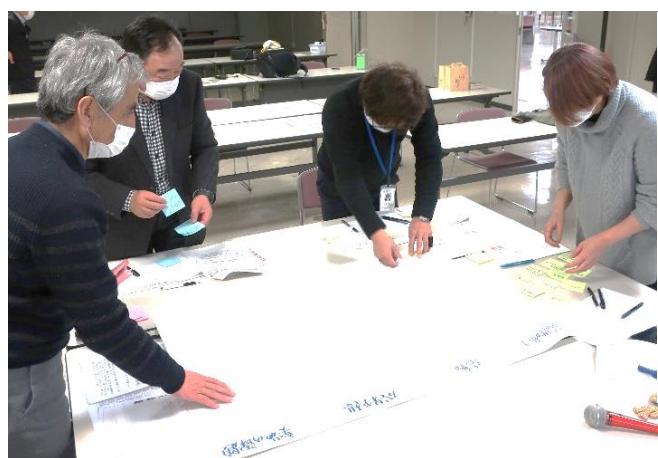
第三部 SDGs行動変容を促すコミュニケーションとは？（30分）

今後一般の方に意識向上と行動変容を促していくため、人間の特性の理解やコミュニケーション手法を、「ナッジ」の概念を題材に学んだ。

【所感】

新型コロナウィルス感染症第6波のため、まん延防止等重点措置が取られる中ではあったが、リアル会場を2会場設けた。少人数で濃いコミュニケーションをおこない、長野会場・安曇野会場とも熱の入ったワークショップとなった。安曇野会場では二拠点居住の参加者と安曇野市市民活動サポートセンタースタッフや他の参加者が新たなつながりを得ることとなった。オンラインでも佐久地域は圏域の参加者のみでブレイクアウトセッションを組み、オンライン上のワークショップとなった。ネット上で共有可能なジャムボードなどを駆使して少人数でできるだけリアルに近い状況を作ることができた。また、終了後に参加できなかつた人が内容を聞きたいと佐久市市民活動サポートセンターに来訪するなど、スタッフが対応、録画も共有することができた。

講師から提供されたワークシートなどは今後も地域で使用可能とのことで、ローカルSDGsを学ぶ上で有効な手法を身に着けることができた。



（ウ） 事後調査の実施

スタートアップセミナーで、プレゼンテーションの題材となった長野市芋井地区からも地域活性化推進員が参加、連続講座もほぼ皆勤で参加した。見える化プログラムの「こうなったらしいなあ芋井地区」の実現を視野に、地区住民自治協議会の事業として地域の若手と地域外の人たちで作る「いいもいリビングらぼ」の取り組みの中心メンバーとして活動を始めた。

(エ) 情報共有

すべての講座終了後、EPO 中部との情報共有の機会を設けた。特に、事後調査の実施により見える化プログラムのプレゼンテーション後の芋井地区の動きについて共有。また、「地域人勧共生圏コーディネーター育成講座参加者の声や圏域での団体間の関係づくりの可能性についても共有した。

イ 参考：地域循環共生圏コーディネーター育成講座（全7回）

（信州環境力レッジとの協働による連続講座）

① 7月25日(日) 「SDGsと地域交通」

リアル会場 長野市鬼無里支所・オンライン併用 参加者：45名（講師・スタッフ含む）
後日動画視聴数：21

【事例発表1】「再生可能エネルギーで観光地を元気に～低速電気バスEMU～」

一般社団法人でんき宇奈月 専務理事兼事務局長 町野美香 氏

【事例発表2】「アプリ活用への挑戦～山古志クローバーバス～」

NPO法人中越防災フロンティア 事務局長 田中康雄 氏

【事例発表3】「再生可能エネルギー活用で鬼無里の地域づくり」

NPO法人まめってえ鬼無里 事務局長 吉田廣子 氏

【ワーク&グループディスカッション】「ジモトの交通、10年後はどうしたい？」

② 9月3日(金) 「SDGsとゼロカーボン」

オンライン 参加者：45名（講師・スタッフ含む） 後日動画視聴数：11

【話題提供】「長野県のゼロ・カーボンへの取り組み」

長野県環境部環境政策課 主査 高橋晴彦 氏

【事例発表1】「地域住民主導の小水力発電を絡ませた地域づくり」

NPO法人地域再生機構 副理事長 野村典博 氏

【事例発表2】「したいことを持ち寄り多様な取り組みを無理せずつづけるコミュニティづくり」

藤野電力 設計・施工・開発部門プロジェクトリーダー 鈴木俊太郎 氏

【ワーク&グループディスカッション】

「ジモトで再生可能エネルギーの活用は可能か？」

③ 9月22日(水) 「SDGsと循環型社会」

オンライン 参加者：34名（講師・スタッフ含む） 後日動画視聴数：20

【事例発表1】「地域とともに歩むいまときの資源リサイクル業の展開」

直富商事（株）管理本部コンプライアンス室 主任 小川和美 氏

【事例発表2】「間伐材利用の菌床えのき栽培で循環型農業」

（株）丸金 営業部 部長 松木淳一 氏

【ワーク&グループディスカッション】「循環型社会を地域で実現させるためには？」

④ 10月22日(金) 「SDGsと福祉・災害支援」

オンライン 参加者：29名（講師・スタッフ含む） 後日動画視聴数：14

【事例発表1】「地域の団体との連携で間伐材を活用する事業」

社会福祉法人 花工房福祉会炭房ゆるくら 所長 今井広樹 氏

【事例発表2】「平時を楽しみ有事に備える「n u o v o」の取り組み」

一般財団法人 日本笑顔プロジェクト 代表 林映寿 氏

【ワーク＆グループディスカッション】

「持続可能な地域をつくるため、多様な人たちとどのように協働していきますか？」

⑤11月25日(木) 「SDGsと働き方改革」

オンライン 参加者：24名（講師・スタッフ含む） 後日動画視聴数：12

【事例発表1】「コミュニティから地域の担い手を作り出す」

特定非営利活動法人こまちぶらす 大塚朋子 氏

【事例発表2】

「地域内外から集まった人たちが多様な働き方で地域に貢献するコミュニティづくり」

株式会社ふろしきや 代表取締役 田村英彦 氏

【ワーク＆グループディスカッション】

「地域の課題解決につながる事業を多様な人たちと多様な働き方で作り出すには、どんな方法があるでしょう？」

⑥12月10日(金) 「SDGsと食品ロス」

オンライン 参加者：24名（講師・スタッフ含む） 後日動画視聴数：10

【事例発表1】「おいしいを耕そう～農家で廃棄される野菜を「乾燥野菜」に」

株式会社 G g r o w O Y A O Y A 代表 小島怜 氏

【事例発表2】「捨てられていたこだわりのパンの耳を地ビールに」

Anglo Japanese Brewing Company 合同会社 代表 リヴシー・絵美子 氏

⑦1月28日(金) 「SDGsと関係人口」

オンライン 参加者 27名（講師・スタッフ含む） 後日動画視聴数：15

【事例発表1】

「なぜ、今、関係人口か？ 県内の事例から見えることを中心に関係人口の今を知る」

KAYAKURA 代表 伊藤将人 氏

【事例発表2】「結果としての」関係人口～「幸雲南塾」の事例を中心に～

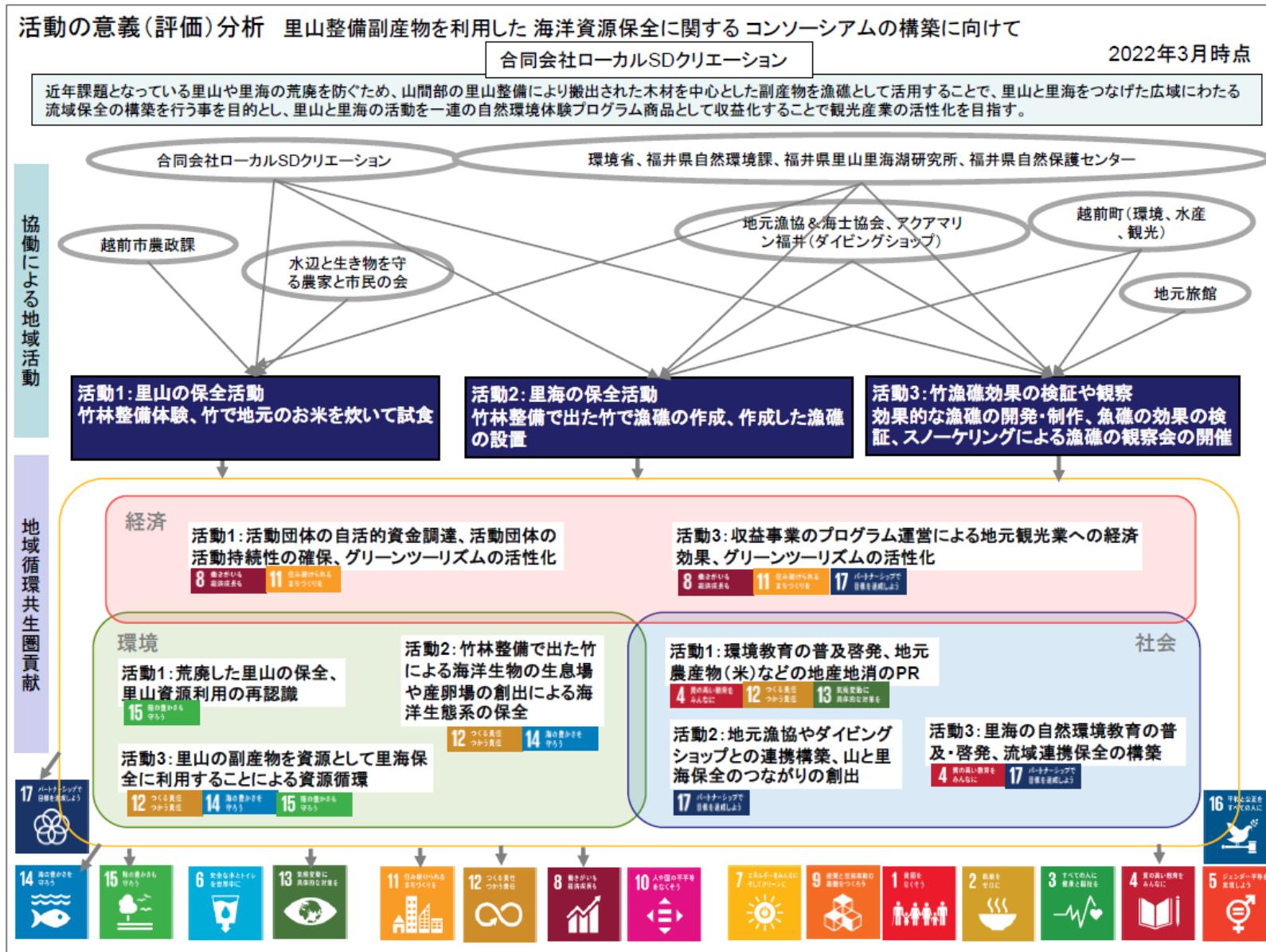
NPO 法人おっちラボ 代表理事 小俣健三郎 氏

※動画視聴数は2022年3月1日現在

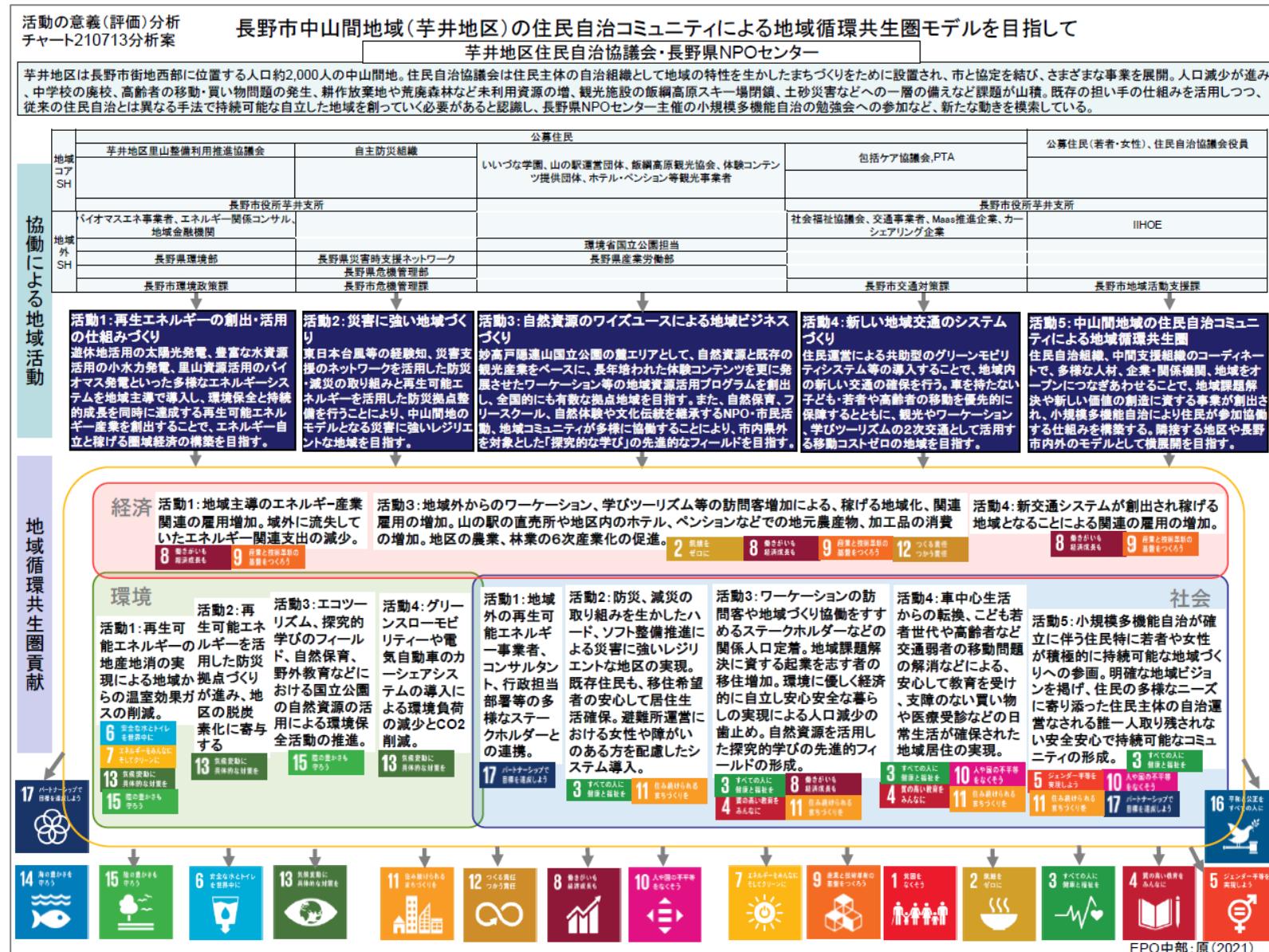
（4）活動主体へのフィードバック（活動見える化プログラムの活用）

- 前項の「地域循環共生圏づくりフォーラム」及び「協働コーディネーターとの連携による実践的取組【信州地域】」において、地域循環共生圏づくりやSDGsへの貢献を可視化する地域支援として「活動見える化プログラム」の事例チャート作成を行った。
- 【信州地域】の「活動見える化プログラム」チャート図については、7月13日開催スタートアップフォーラムにおいて、取組の現状分析を解説するなどして活用した。

【作成した活動見える化チャート】北陸エリアの事例：里山整備副産物を利用した 海洋資源保全に関する コンソーシアムの構築に向けて



【作成した活動見える化チャート】信州エリアの事例：長野市中山間地域（芋井地区）の住民自治コミュニティによる地域循環共生圏モデルを目指して



(5) ローカル SDGs/地域循環共生圏のためのグループワーキング

①日時

- 2022 年 1 月 19 日 (水)
13:30~16:30



②主催

- 環境省中部環境パートナー
シップオフィス (EPO 中部)

③開催方法

- オンライン

④参加者

- 40 名 (事務局 3、登壇・関係者 3 含む)

⑤プログラム

○第一部

- ・ あいさつ/地域循環共生圏とローカル SDGs について
環境省中部地方環境事務所環境対策課主査 佐藤 堅太 氏
- ・ 「SDGs を地域づくりに生かす-マトリックスからの脱却をめざして」
日本福祉大学 国際福祉開発学部 教授 千頭 聰 氏
- ・ 質疑応答
- ・ 情報提供「ローカル SDGs と同時解決」
EPO 中部

○第二部

- ・ 「ローカル SDGs に取り組むうえでの “課題感” 抽出・共有ディスカッション」
ファシリテーター：EPO 中部
課題に感じていること
取り組むメリットとは
今必要なこと (取組・支援・情報ニーズなど)
- ・ 講評
日本福祉大学 国際福祉開発学部 教授 千頭 聰 氏

